

2020年度豊岡市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
介護・在宅医療意向調査
在宅介護実態調査

集計結果 概要版

2020年12月

豊岡市

【 目 次 】

第1章 調査の概要	4
1 調査目的	4
2 実施内容	4
(1) 調査対象	4
(2) 調査方法	4
(3) 調査期間	4
(4) 回収状況	5
(5) 調査結果の表示方法	5
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果	6
1 属性	6
■性別	6
■年齢	6
■世帯の状況	7
■日中一人になることがあるか	8
2 日ごろの生活について	9
■近隣との付き合い	9
■外出頻度	10
■趣味や生きがいの有無	11
■家族や友人・知人以外の相談相手	12
3 認知症について	13
■自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先	13
■認知症カフェの認知度	14
■市が認知症施策として優先して取り組むべきもの	15
4 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて	16
■普段の生活での介護・介助の必要性	16
■誰が介護・介助をしているか	17
■主な介護・介助の性別	17
■主な介護・介助者の年齢	18
■介護・介助が必要となった原因	19
5 在宅医療について	20
■在宅医療の認知度	20
■かかりつけ医等の有無	21
■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望	22
■自宅での看取りの希望と実現の可能性	23
■自宅で最期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由	24
6 その他について	26
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度	26
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの	27
第3章 介護・在宅医療意向調査結果	28
1 属性	28
■性別	28
■年齢	28
■世帯の状況	29

■日中一人になることがあるか	30
2 日ごろの生活について	31
■近隣との付き合い	31
■外出頻度	31
■外出を控えているか	32
■外出を控えている理由	33
■趣味や生きがいの有無	34
3 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて	35
■早朝や夜間に支援を必要とする機会	35
■家族や親族による介護・介助の頻度	36
4 在宅医療について	37
■在宅医療の認知度	37
■かかりつけ医等の有無	37
■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望	38
■自宅での看取りの希望と実現可能性	39
■自宅で最期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由	40
■今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと	42
5 その他について	43
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度	43
■介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと	44
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの	45
第4章 在宅介護実態調査の概要	46
■主な介護者の性別・年齢	46
■主な介護者が行っている介護	47
■介護のための離職の有無	48
■介護保険サービスの利用の有無	48
■主な介護者の勤務形態と働き方の調整状況	49
■就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	50
■在宅生活の継続のために利用している保険外サービスと必要と感じるサービス ..	51

第1章 調査の概要

1 調査目的

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

高齢者の生活の状況や心身の状態などについて把握し、2021年度より始まる「豊岡市老人福祉・第8期介護保険事業計画」の策定に向け、基礎資料として、介護予防などに関する事業の推進に活用します。

② 介護・在宅医療意向調査

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、在宅生活を継続するにあたっての意向及び課題等を把握し、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、「老人福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の基礎資料とします。

③ 在宅介護実態調査

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」や「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料とします。

2 実施内容

(1) 調査対象

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定を受けていない者

② 介護・在宅医療意向調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定者

③ 在宅介護実態調査

在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要支援及び要介護認定者

(2) 調査方法

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査対象者(23,155人)から3,000人を無作為抽出し、調査票の郵送配布、郵送回収により実施

② 介護・在宅医療意向調査

調査対象者(2,125人)から1,000人を無作為抽出し、調査票の郵送配布、郵送回収により実施

③ 在宅介護実態調査

認定調査の訪問時に、378人の方に対して、聞き取りにより実施

(3) 調査期間

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

2020年3月27日(金)～2020年5月7日(木)

② 介護・在宅医療意向調査

2020年3月31日(火)～2020年5月7日(木)

③ 在宅介護実態調査

2020年1月～2020年4月

(4) 回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収数
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000	2,009	67.0%	2,009	67.0%
②介護・在宅医療意向調査	1,000	527	52.7%	527	52.7%

	調査数 (聞き取り数)	有効回答数
③在宅介護実態調査	378	378

(5) 調査結果の表示方法

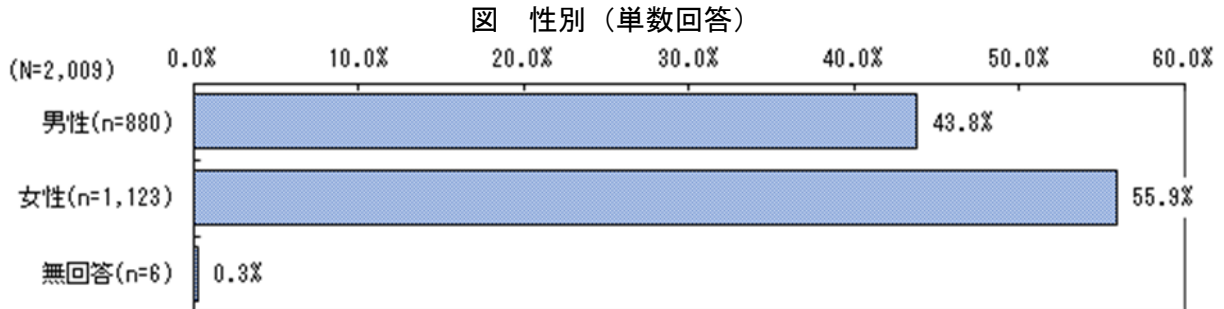
- ・設問ごとの集計母数はグラフ中に「N=***」、各項目の回答数は「n=***」と表記しています。
- ・集計結果の百分率(%)は小数点第2位を四捨五入した値を表記しています。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めています。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはなりません。
- ・クロス集計のグラフ・数表では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と表記しています。
- ・クロス集計のグラフ・数表では、無回答を除いているため、各項目の総和と全体の集計母数(N数)は一致しない場合があります。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

1 属性

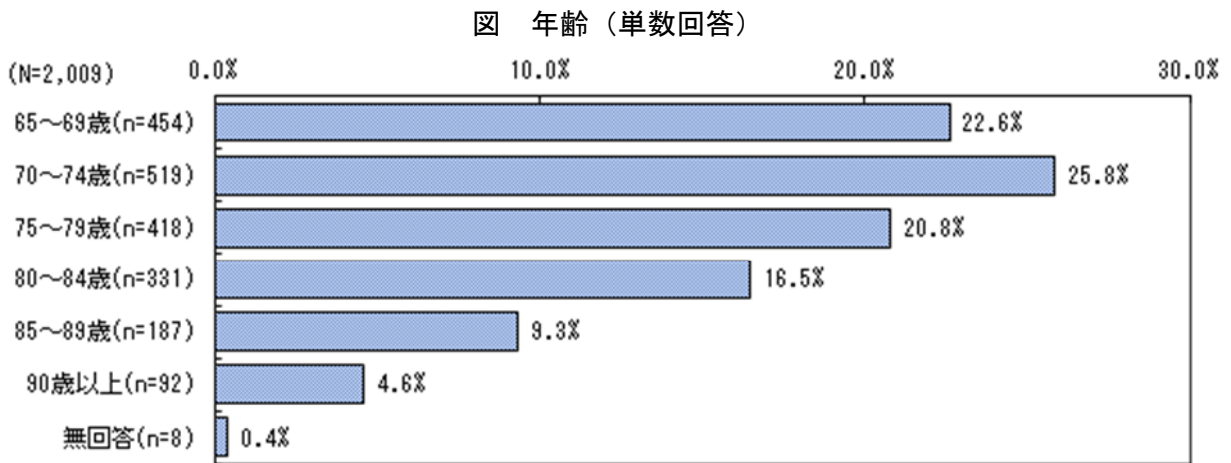
■性別

「女性」が55.9%、「男性」が43.8%となっています。

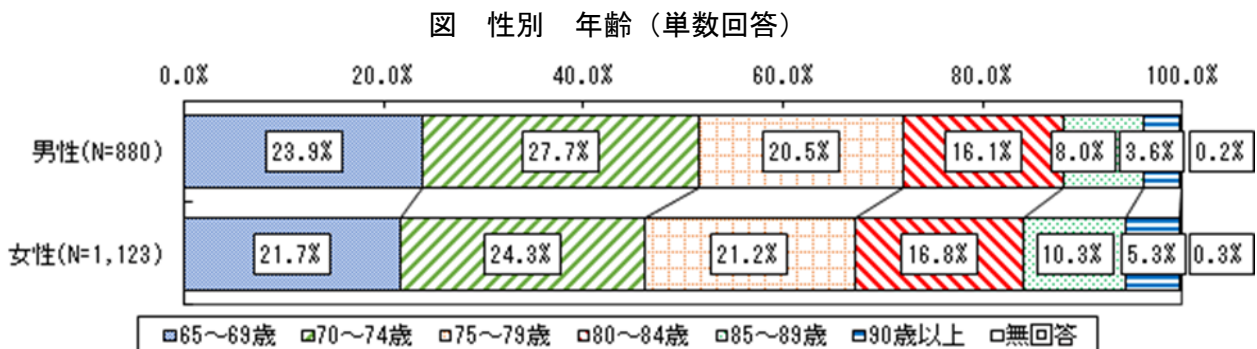


■年齢

「70～74 歳」(25.8%) が最も多く、次いで「65～69 歳」(22.6%)、「75～79 歳」(20.8%) となっており、75 歳以上が51.2%となっています。



男性は75歳未満が51.6%、女性は75歳以上が53.6%となっており、女性のほうが年齢層は高くなっています。

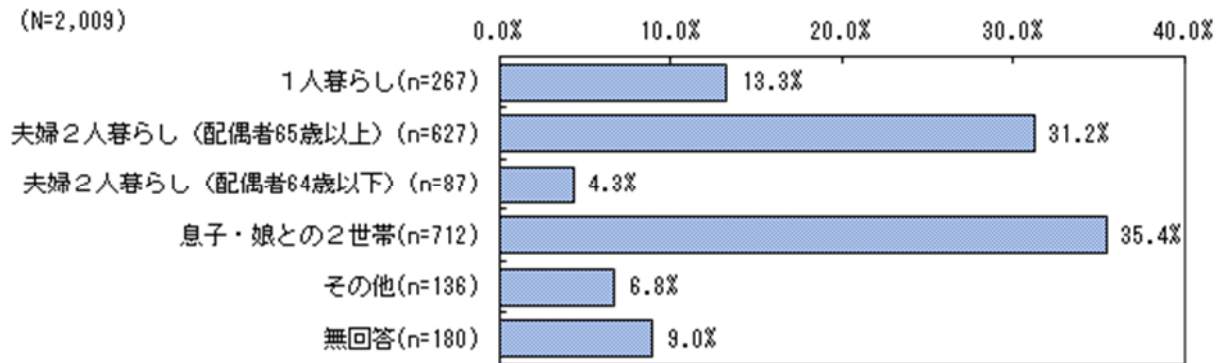


■世帯の状況

○「1人暮らし」は全体の約1割を占め、年齢が高くなるほど増加する。

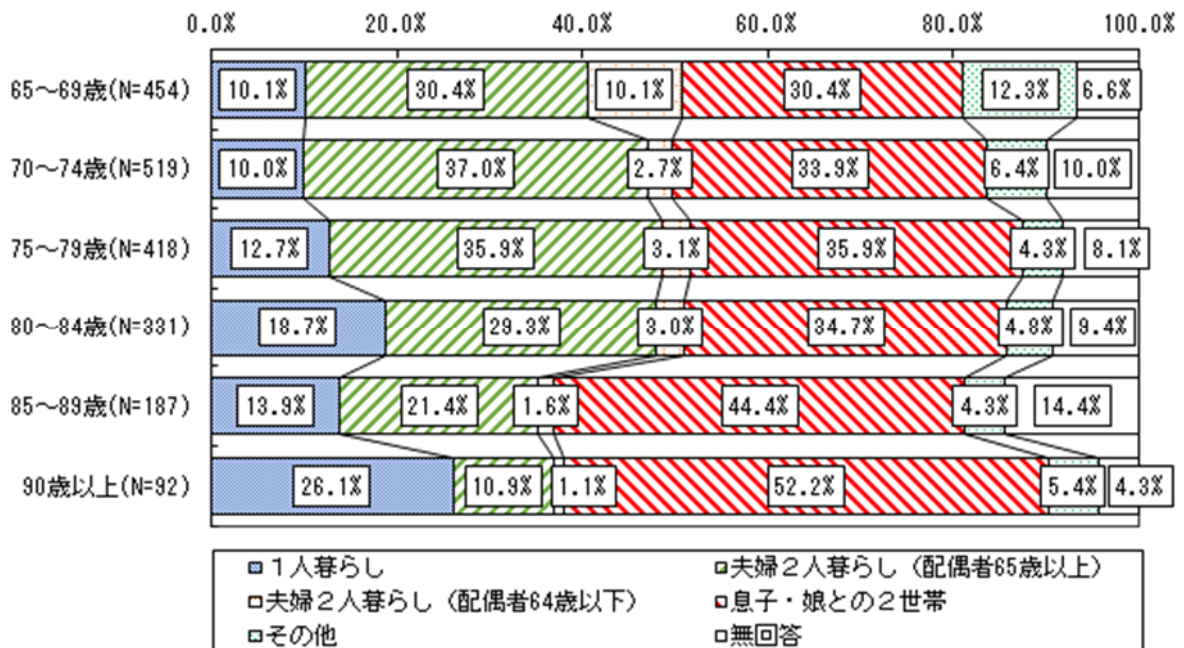
「息子・娘との2世帯」(35.4%)が最も多く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(31.2%)、「1人暮らし」(13.3%)となっています。

図 世帯の状況(単数回答)



年齢別にみると、年齢層が高いほど「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」が増加し、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が減少するという傾向がみられます。

図 年齢別 世帯の状況(単数回答)

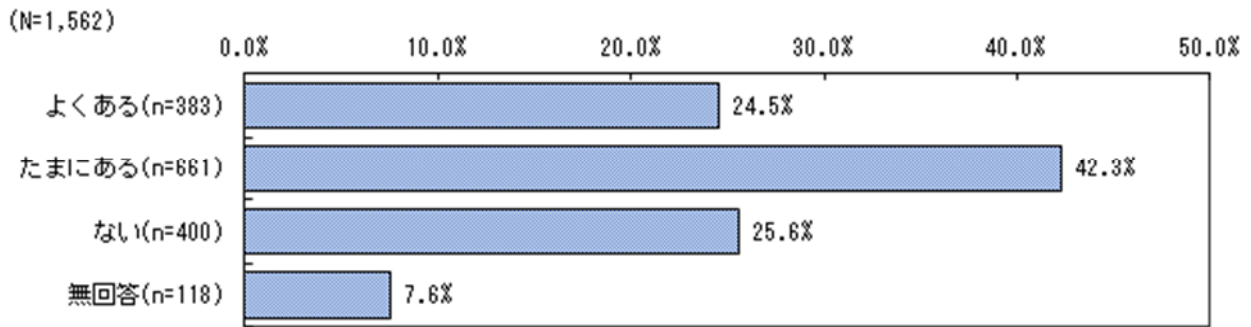


■日中一人になることがあるか

○日中に一人になることが「よくある」という人は年齢が高くなるほど増加し、90歳以上では約4割を占める。

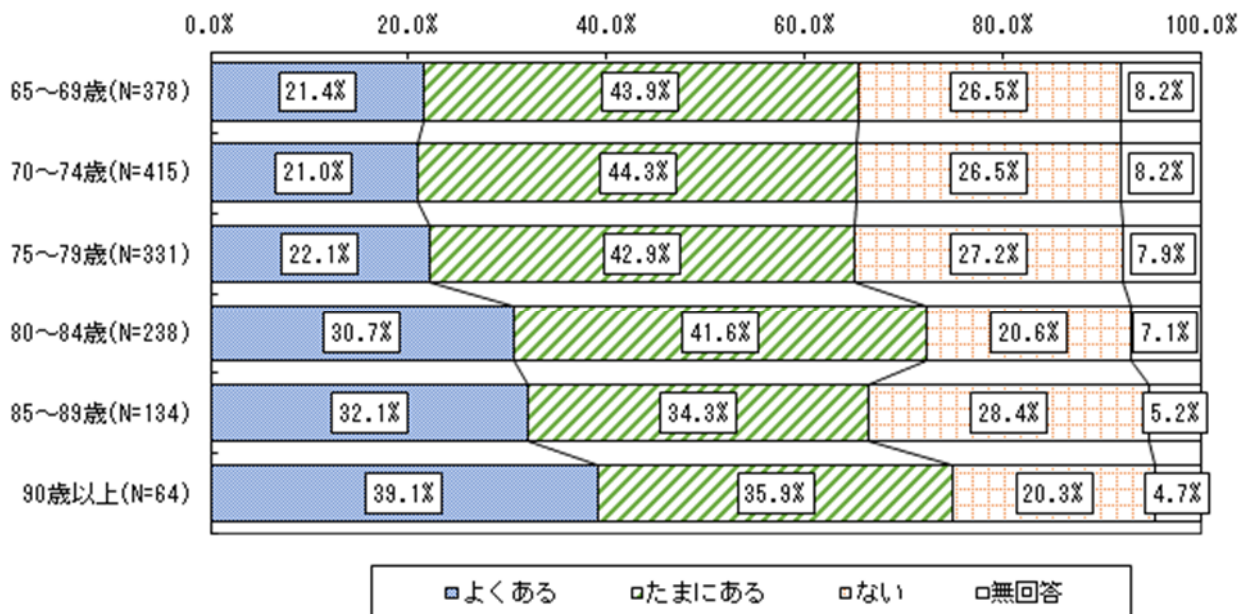
1人暮らしでない方について、「日中一人になることがあるか」をみると、「たまにある」(42.3%)が最も多く、次いで「ない」(25.6%)、「よくある」(24.5%)となっています。

図 日中一人になることがあるか（単数回答）



年齢別にみると、日中ひとりになることが「よくある」という方は80歳以上では3割以上と、高齢になるほど多くなっています。

図 年齢別 日中一人になることがあるか（単数回答）



2 日ごろの生活について

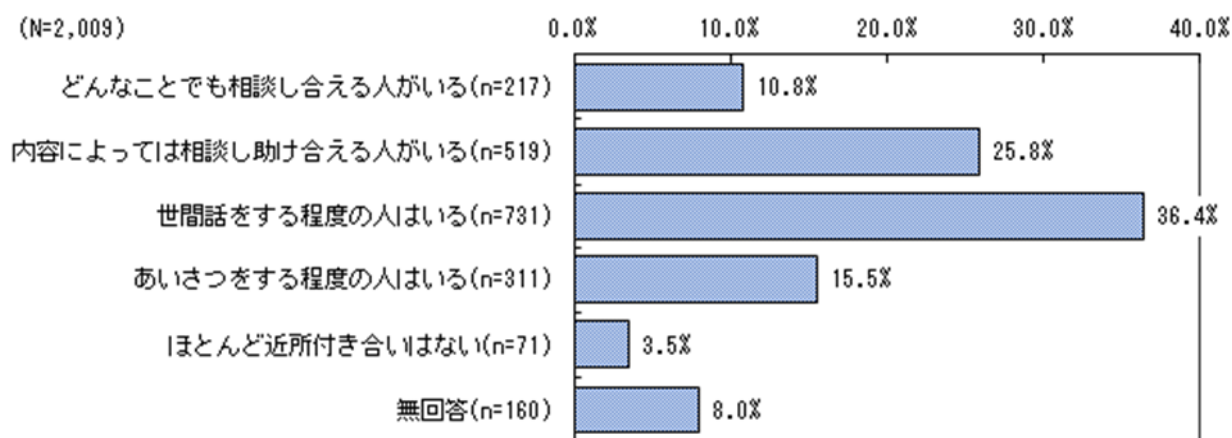
■近隣との付き合い

あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをされていますか。(1つに○)

○近所と何らかの付き合いがある人が多く、「ほとんど近所付き合いはない」という人はごくわずか。

「世間話をする程度の人はいる」(36.4%)が最も多く、次いで「内容によっては相談し助け合える人がある」(25.8%)、「あいさつをする程度の人はいる」(15.5%)となっています。

図 近隣との付き合い(単数回答)



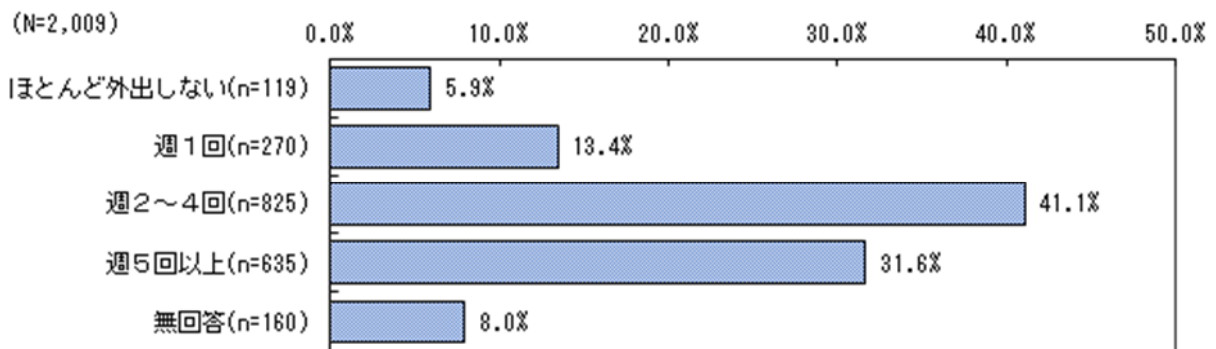
■外出頻度

あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

○各年代で週2回以上は外出する人が多いが、年齢が高くなるにつれて「ほとんど外出しない」という人が増加する。

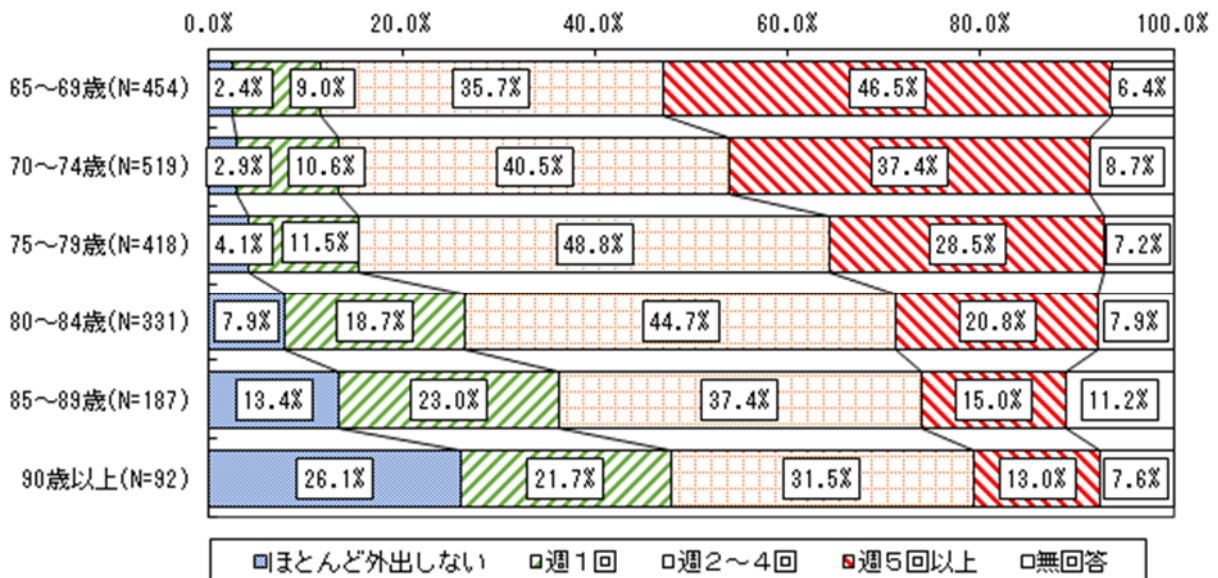
「週2～4回」(41.1%)が最も多く、次いで「週5回以上」(31.6%)、「週1回」(13.4%)となっています。

図 外出頻度 (単数回答)



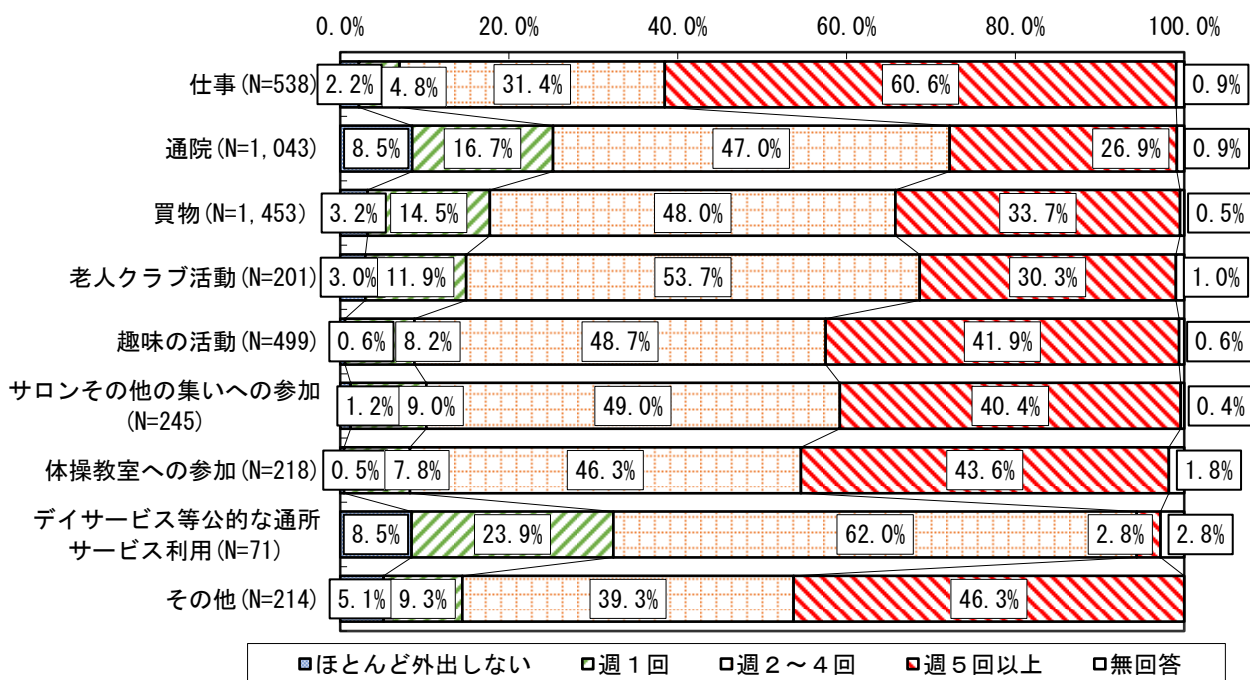
年齢別にみると、週に1回以下しか外出しない人の割合は高齢になるほど多く、90歳以上が47.8%と多くなっています。

図 年齢別 外出頻度 (単数回答)



外出目的別に外出頻度をみると、外出する主な目的が「仕事」では「週5回以上」が60.6%と最も多くなっています。「その他」を除くそれ以外の目的では「週2～4回」が最も多くなっています。また、外出する主な目的が「デイサービス等公的な通所サービス利用」では「週1回」が23.9%と多くなっています。

図 外出目的別 外出頻度（複数回答）



■趣味や生きがいの有無

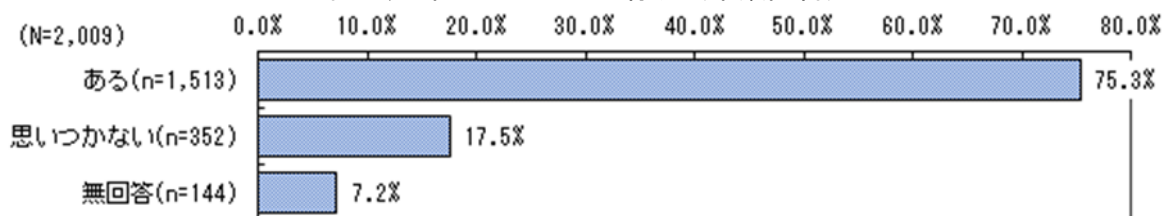
あなたには、趣味や生きがいとしているもの（こと）がありますか。

○趣味や生きがいが「ある」人は7割以上。

趣味や生きがいの有無をみると、「ある」が75.3%となっています。

趣味や生きがいの具体的内容としては、「農業、田仕事、畑仕事」が最も多く、次いで「運動、スポーツ」、「友人・知人との交流・会話」、「園芸」などとなっています。

図 趣味や生きがいの有無（単数回答）



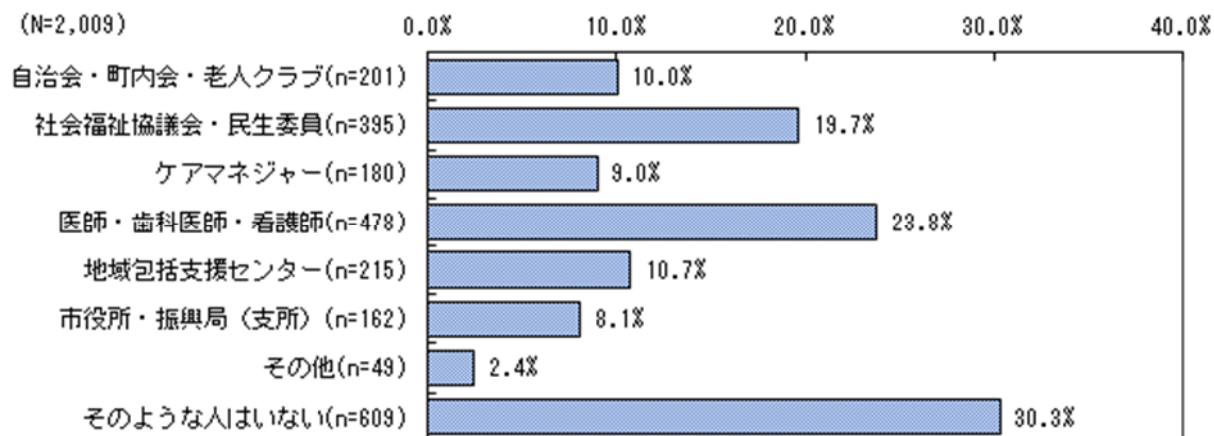
■家族や友人・知人以外の相談相手

あなたが、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

○家族や友人・知人以外の相談相手が「いない」という人が約3割。

「そのような人はいない」(30.3%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(23.8%)、「社会福祉協議会・民生委員」(19.7%)となっています。

図 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



3 認知症について

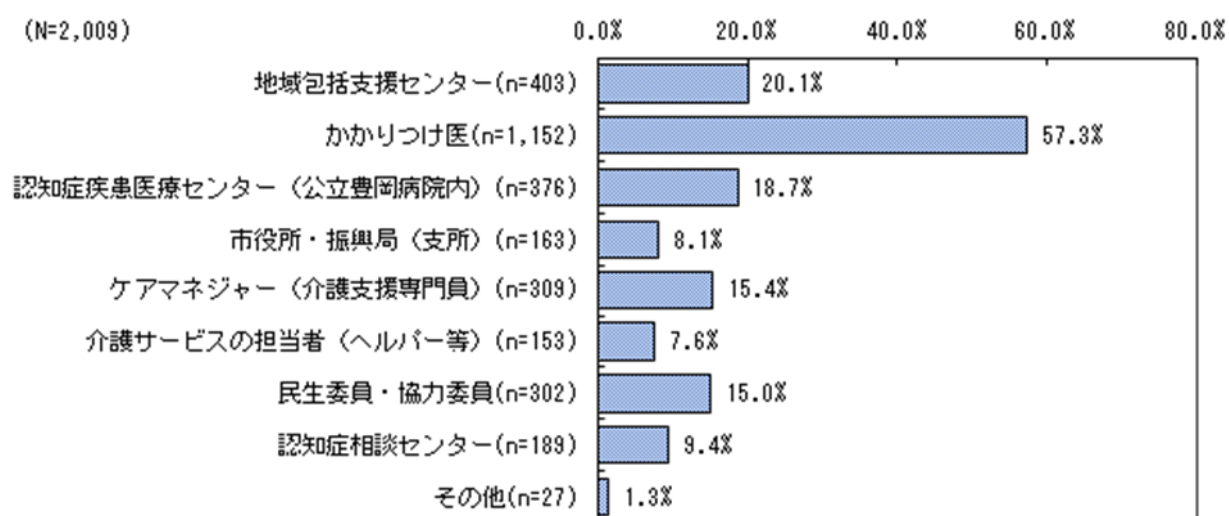
■自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先

あなたやあなたの身近な人に認知症の疑いがある時に、どのような機関・人に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

○自分や身近な人に認知症の疑いがある時の身近な相談相手は「かかりつけ医」。

「かかりつけ医」(57.3%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(20.1%)、「認知症疾患医療センター(公立豊岡病院内)」(18.7%)となっています。

図 自分や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先(複数回答)



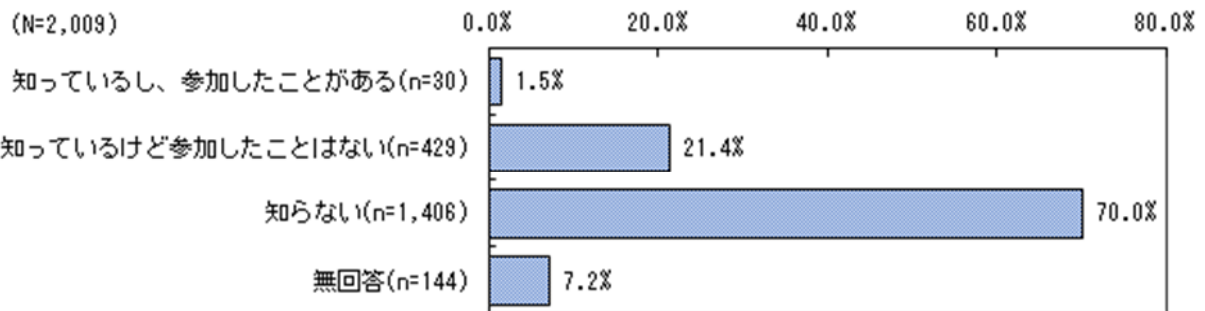
■認知症カフェの認知度

あなたは、認知症カフェを知っていますか。(1つに○)

○認知症カフェは一定の認知度はあるが、参加したことがある人は1.5%にとどまる。

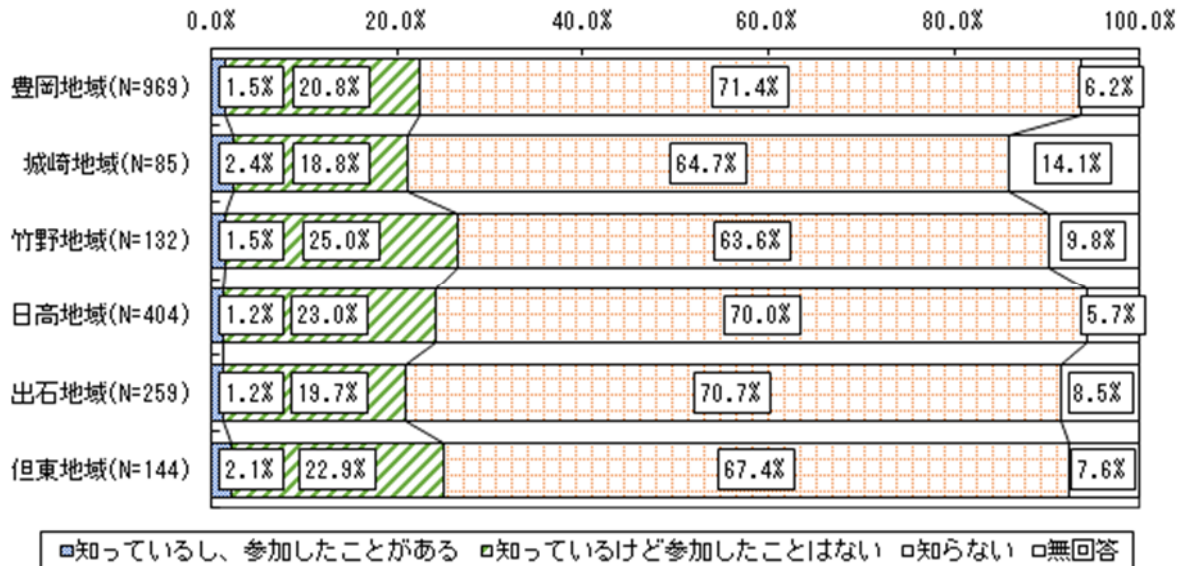
「知らない」(70.0%)が最も多くなっています。認知度(「知っているし、参加したことがある」と「知っているけど参加したことはない」の合計)は22.9%となっています。

図 認知症カフェの認知度(単数回答)



居住地域別にみると、認知度が最も高いのは竹野地域(26.5%)で、最も低いのは出石地域(20.9%)となっています。

図 居住地域別 認知症カフェの認知度(単数回答)



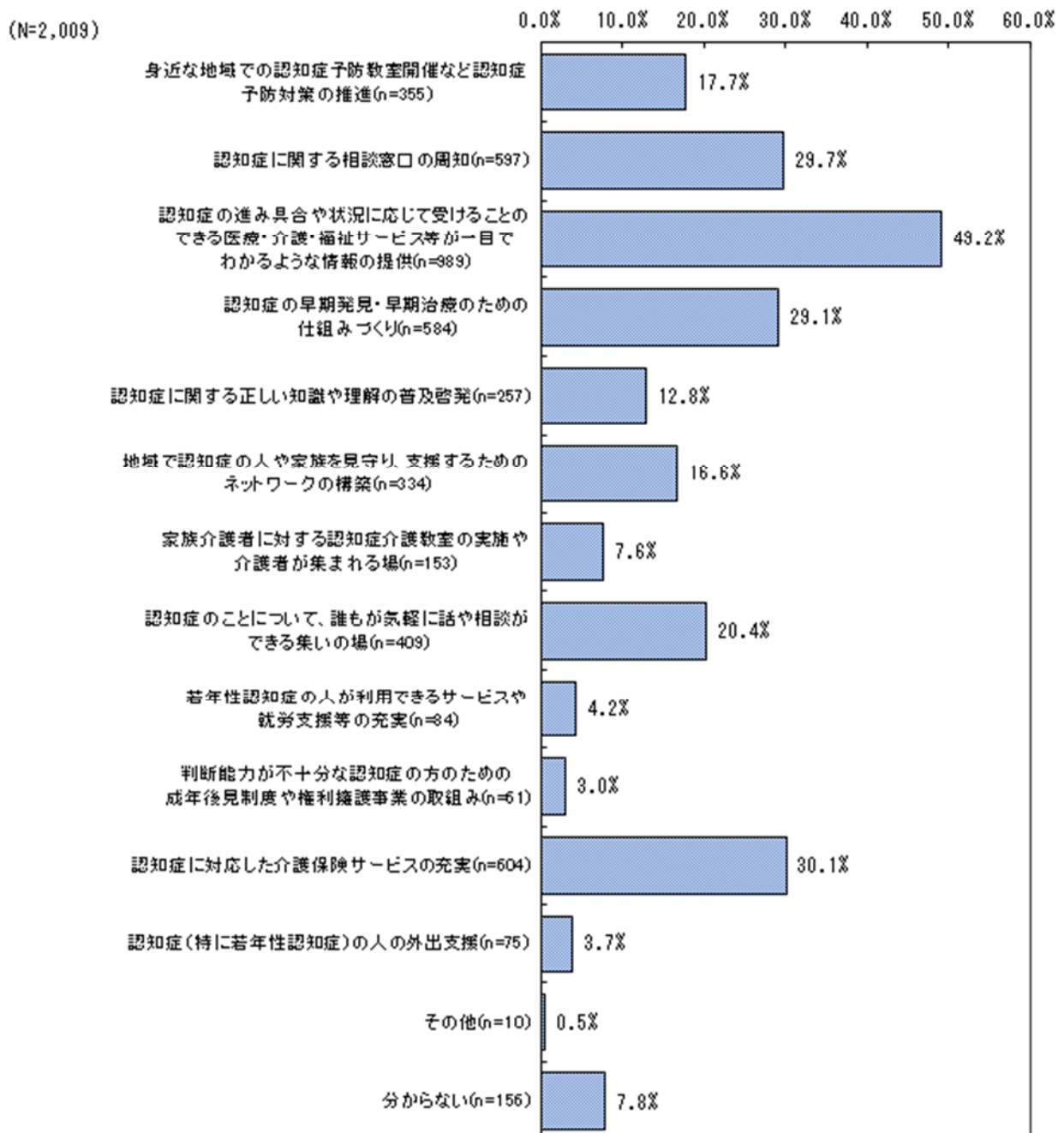
■市が認知症施策として優先して取り組むべきもの

認知症になっても住み慣れた地域で生活を送るため、市が取り組むものとして、あなたは、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

○認知症施策として優先すべき取組は、「認知症の進み具合や状況に応じて受けることのできる医療・介護・福祉サービス等が一目でわかるような情報の提供」。

「認知症の進み具合や状況に応じて受けることのできる医療・介護・福祉サービス等が一目でわかるような情報の提供」（49.2%）が最も多く、次いで「認知症に対応した介護保険サービスの充実」（30.1%）、「認知症に関する相談窓口の周知」（29.7%）となっています。

図 市が認知症施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）



4 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて

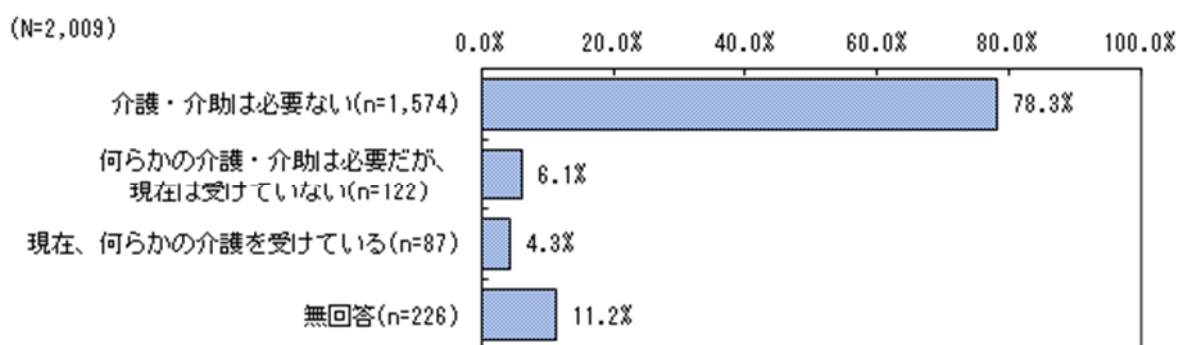
■普段の生活での介護・介助の必要性

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

○年齢が高くなるにつれて何らかの介護を受けている人が増加する一方で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」という人も増加する。

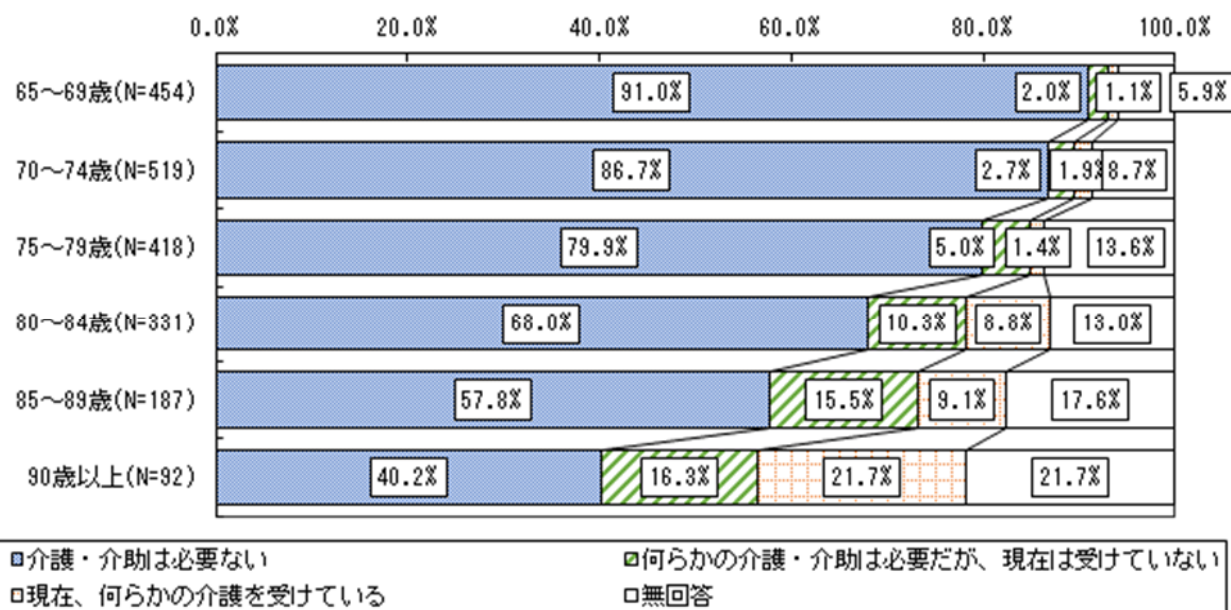
「介護・介助は必要ない」(78.3%)が最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(6.1%)、「現在、何らかの介護を受けている」(4.3%)となっています。

図 普段の生活での介護・介助の必要性 (単数回答)



年齢別にみると、年齢層が高いほど「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」が多くなっています。

図 年齢別 普段の生活での介護・介助の必要性 (単数回答)

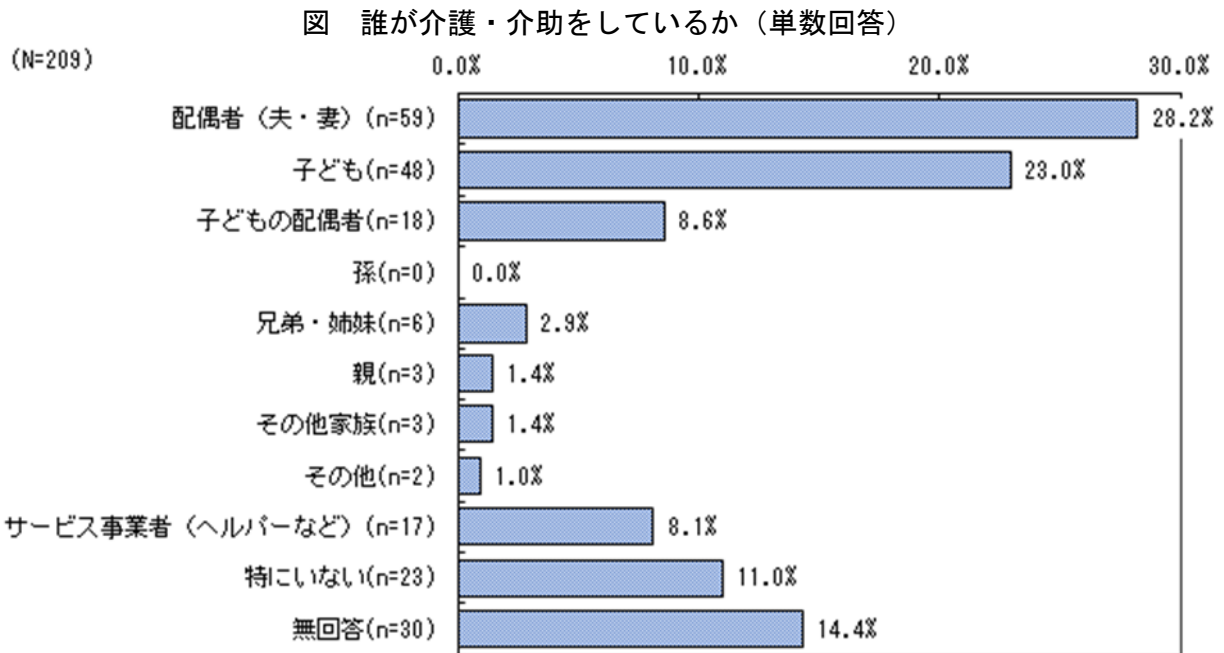


■誰が介護・介助をしているか

あなたを主に介護・介助をしているのは、どなたですか。(1つに○) (要支援・要介護認定を受けずに介護・介助を受けている場合もお答えください)

○主な介護・介助者は「配偶者」や「子ども」で、家族による介護が多い。

「配偶者(夫・妻)」(28.2%)が最も多く、次いで「子ども」(23.0%)、「特にいない」(11.0%)となっています。



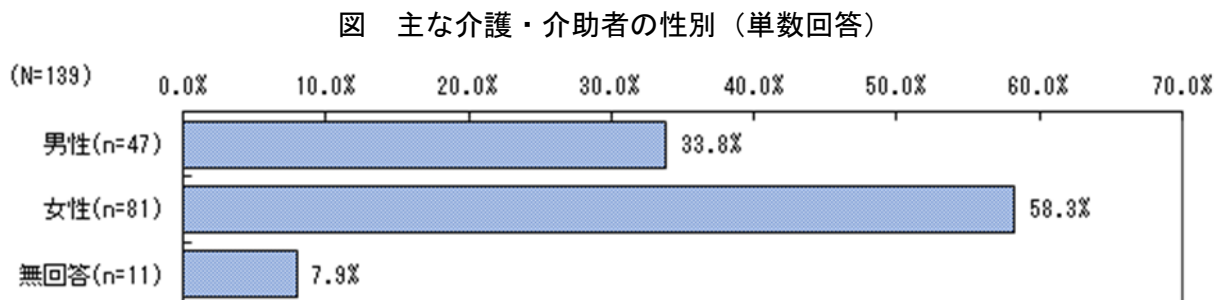
■主な介護・介助の性別

あなたを主に介護・介助している方の性別をお答えください。(1つに○)

※主な介護・介助者が「サービス事業者 (ヘルパーなど)」、「特にいない」、「無回答」を除きます。

○主な介護・介助者は「女性」が多い。

主な介護・介助者の性別をみると、「女性」が58.3%、「男性」が33.8%となっています。



■主な介護・介助者の年齢

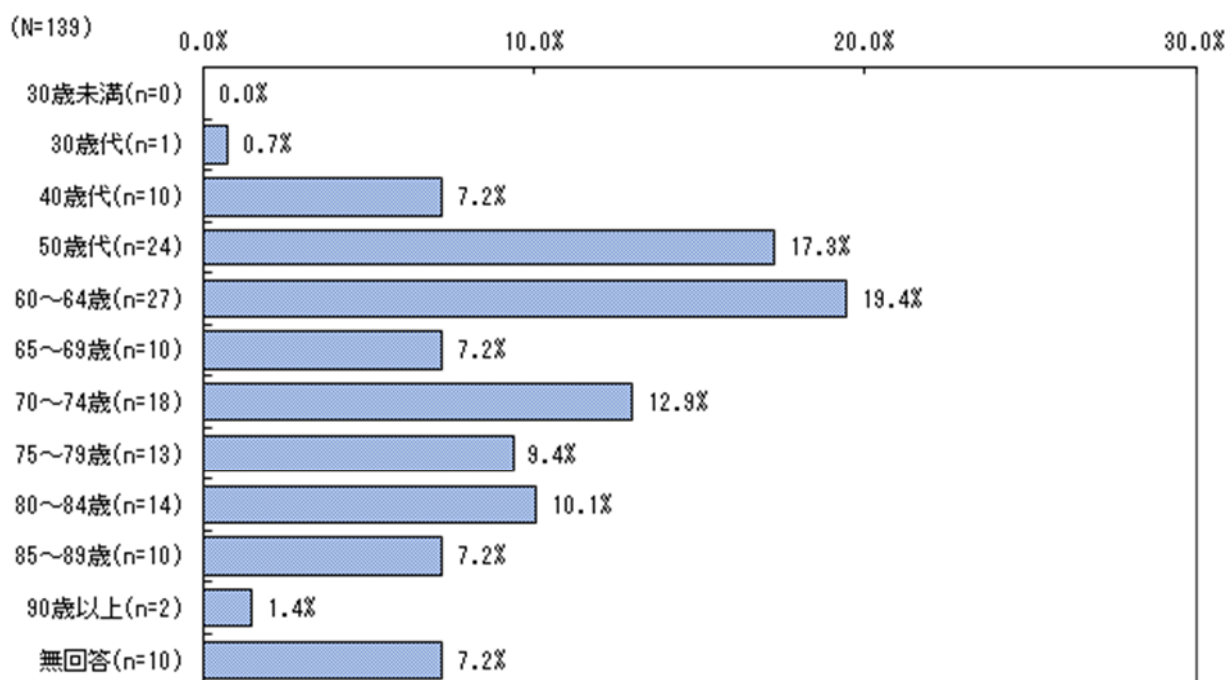
あなたを主に介護・介助している方の年齢はおいくつですか。(1つに○)

※主な介護・介助者が「サービス事業者(ヘルパーなど)」、「特にない」、「無回答」を除きます。

○主な介護・介助者は「60～64歳」が多く、70歳以上も約4割を占める

「60～64歳」(19.4%)が最も多く、次いで「50歳代」(17.3%)、「70～74歳」(12.9%)となっており、70歳未満が51.8%となっています。

図 主な介護・介助者の年齢(単数回答)



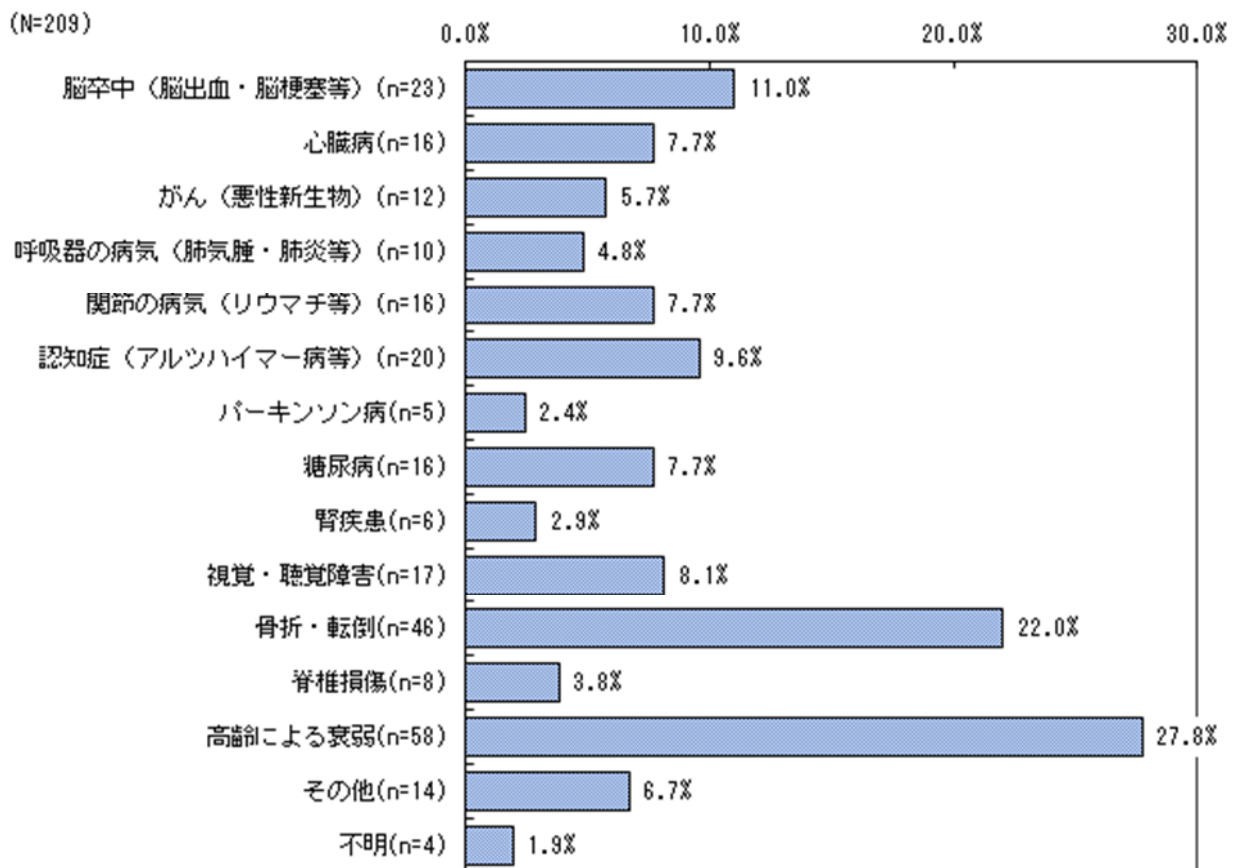
■介護・介助が必要となった原因

あなたが、介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

○「高齢による衰弱」や「骨折・転倒」により介護が必要となった人が多い。

介護・介助が必要な方について、主な原因についてみると、「高齢による衰弱」（27.8%）が最も多く、次いで「骨折・転倒」（22.0%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（11.0%）となっています。

図 介護・介助が必要となった原因（複数回答）



5 在宅医療について

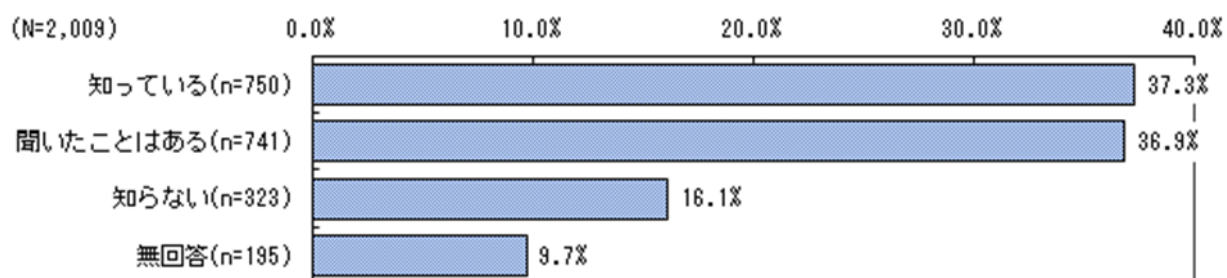
■在宅医療の認知度

あなたは、「在宅医療」について知っていますか。(1つに○)

○在宅医療の認知度は年齢が高くなるにつれて減少傾向。

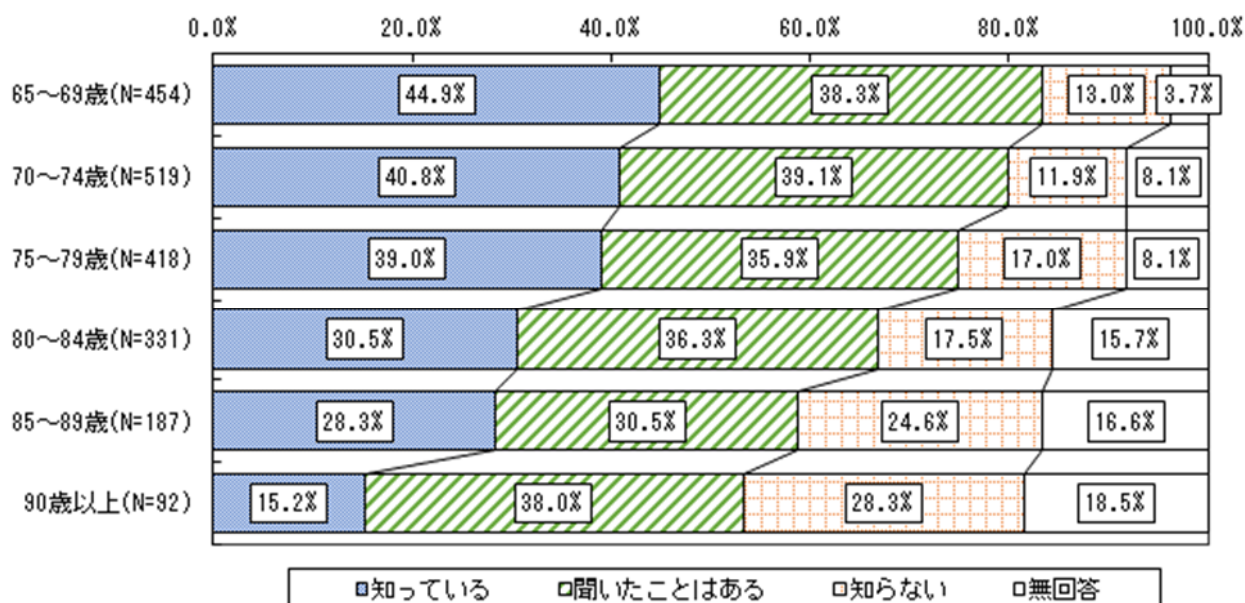
「知っている」(37.3%)が最も多く、次いで「聞いたことはある」(36.9%)、「知らない」(16.1%)となっています。

図 在宅医療の認知度 (単数回答)



年齢別にみると、「知っている」は年齢層が低いほど多くなっています。

図 年齢別 在宅医療の認知度 (単数回答)



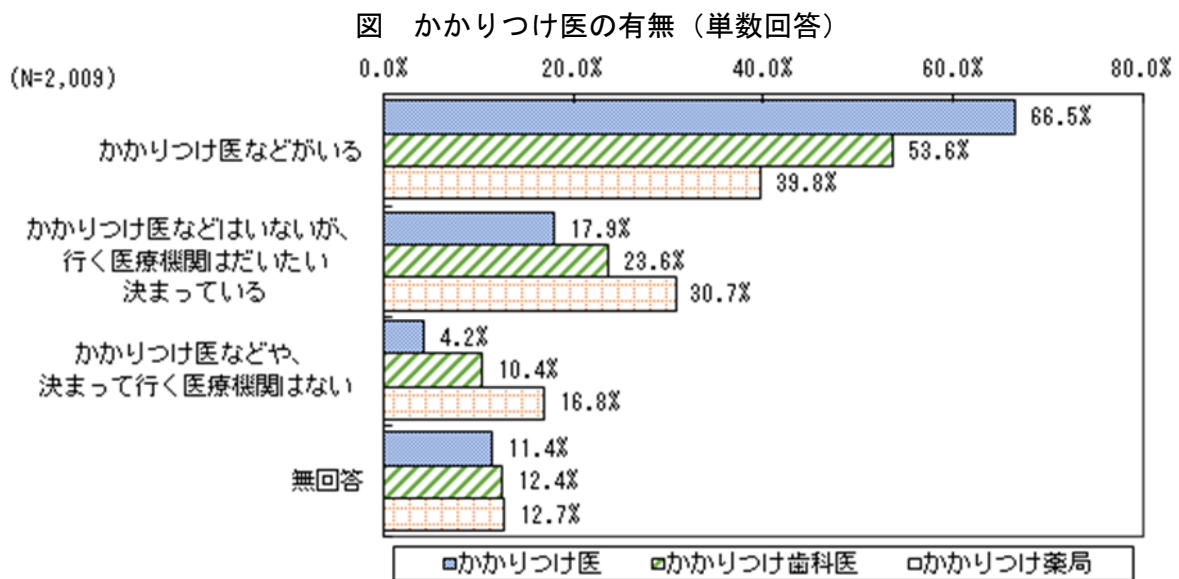
■かかりつけ医等の有無

あなたには、

- ・健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
- ・歯の状態を診てもらったり相談したりできる「かかりつけ歯科医」がいますか。
- ・お薬のことを相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

○「かかりつけ医」や「かかりつけ歯科医」がいる人は5割以上。一方、かかりつけ薬局がある人は約4割と少ない。

「いる」は「かかりつけ医」が66.5%、「かかりつけ歯科医」が53.6%、「かかりつけ薬局」が39.8%となっています。



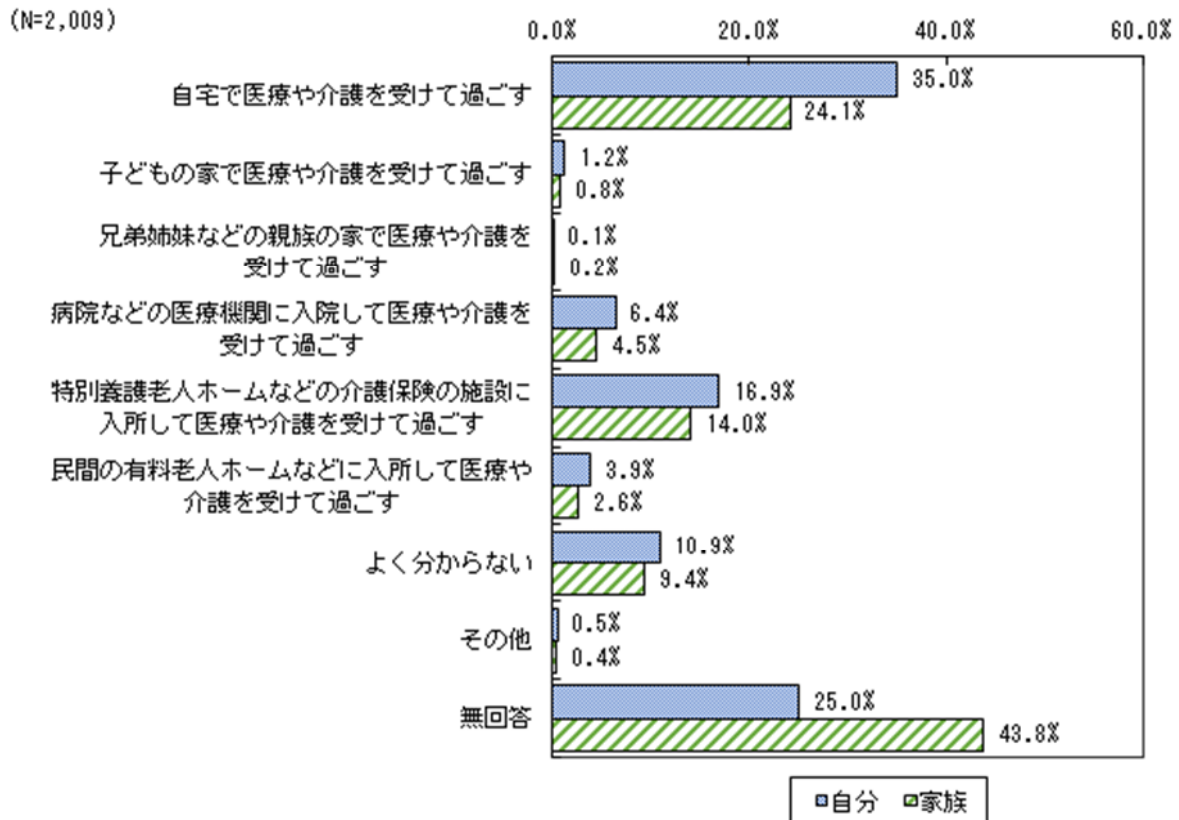
■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望

あなた自身が、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。また、ご家族が同様の時、どこで過ごしてもらいたいか、あなたの考えをお聞かせください。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

○医療や介護が必要になったら自分、家族の場合ともに自宅で医療や介護を受けて過ごすことを希望する人が多い。

自分の場合・家族の場合ともに「自宅で医療や介護を受けて過ごす」（自分：35.0%、家族：24.1%）が最も多く、子どもの家・親族の家で過ごすことを希望する人を合計すると、自宅での医療や介護を希望する人は自分の場合が36.3%、家族の場合が25.1%となっています。

図 高齢期に医療や介護が必要になった際の希望（複数回答）



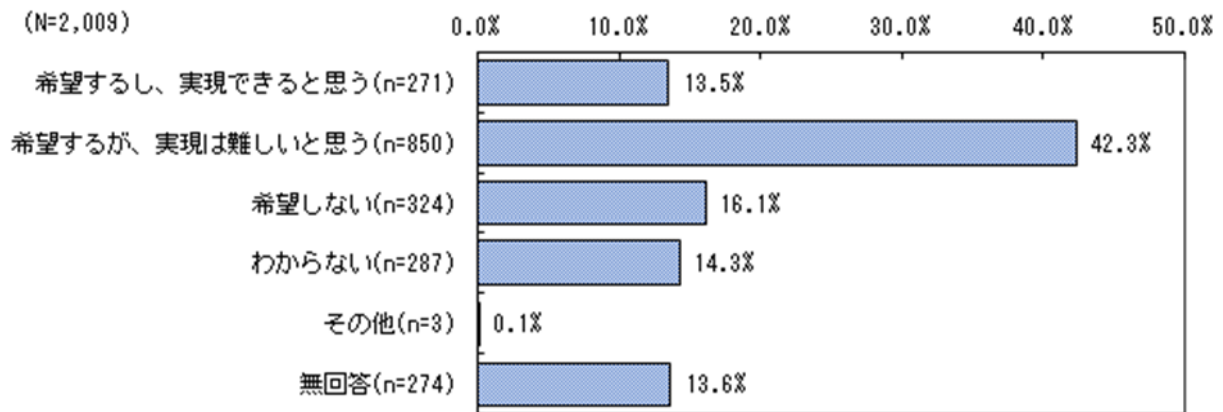
■自宅での看取りの希望と実現の可能性

あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがない状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか、また、実現可能だと思いますか。（○は1つ）

○自宅での看取りを希望するが実現は難しいと考えている人が約4割と最も多く、年齢が高いほど実現できると思う人が多い。

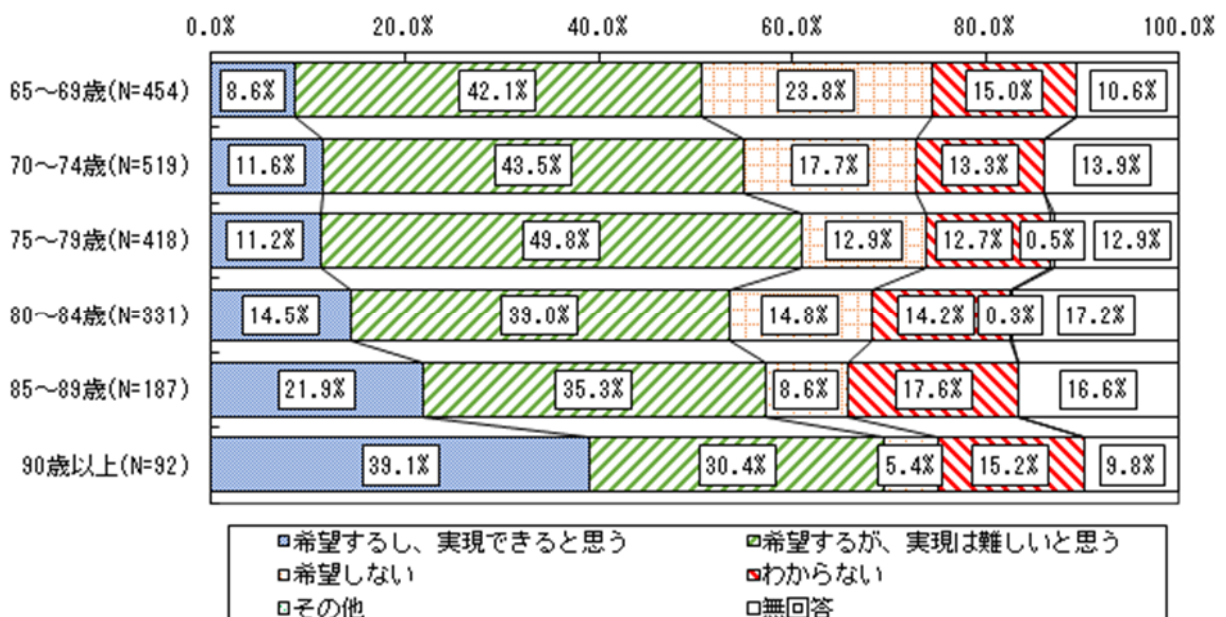
「希望するが、実現は難しいと思う」（42.3%）が最も多く、次いで「希望しない」（16.1%）、「わからない」（14.3%）となっています。自宅での看取りを希望する人（「希望するし、実現できると思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」の合計）は55.8%となっていますが、実現できると思う人は13.5%と少なくなっています。

図 自宅での看取りの希望と実現可能性（単数回答）



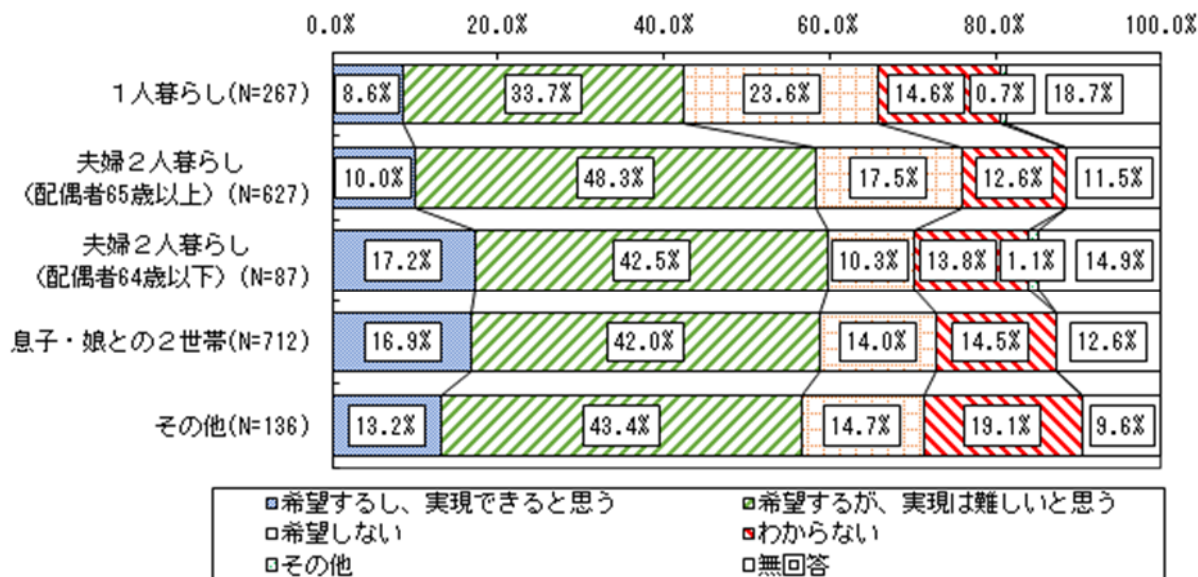
年齢別にみると、「希望するし、実現できると思う」は年齢層が高いほど多くなっており、90歳以上では39.1%と約4割となっています。

図 年齢別 自宅での看取りの希望と実現可能性（単数回答）



世帯の状況別にみると、「希望するし、実現できると思う」は1人暮らしと夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で少なくなっています。また、1人暮らしでは「希望しない」が2割を超えています。

図 世帯の状況別 自宅での看取りの希望と実現可能性（単数回答）



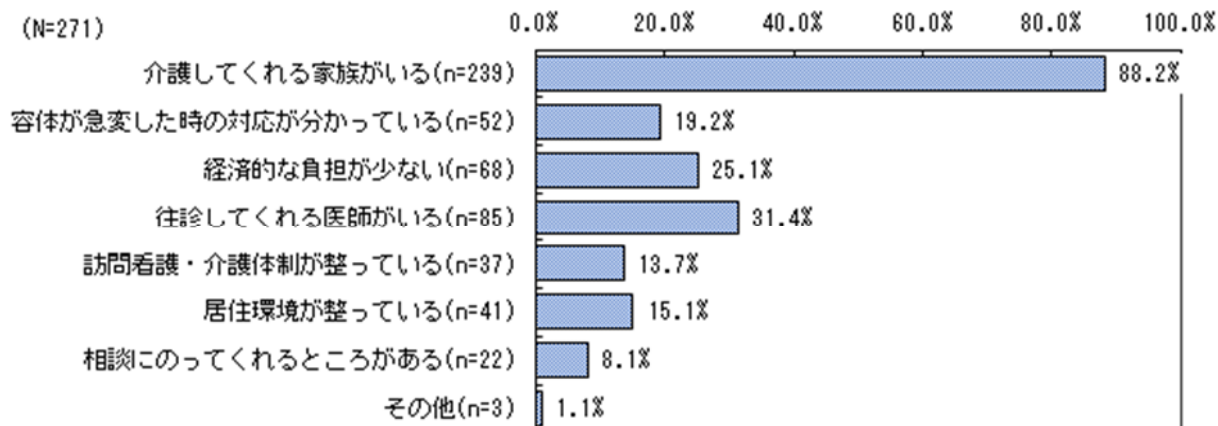
■自宅でも期まで過ごすことができると考える理由、難しいと考える理由

（自宅でも期まで過ごすことができるかという問いに対して）「希望するし、実現できると思う」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

○自宅でも期まで過ごすことができる理由は「介護してくれる家族がいる」から。

自宅でも期まで過ごすことができると考える理由についてみると、「介護してくれる家族がいる」(88.2%)が最も多く、次いで「往診してくれる医師がいる」(31.4%)、「経済的な負担が少ない」(25.1%)となっています。

図 自宅でも期まで過ごすことができると考える理由（複数回答）

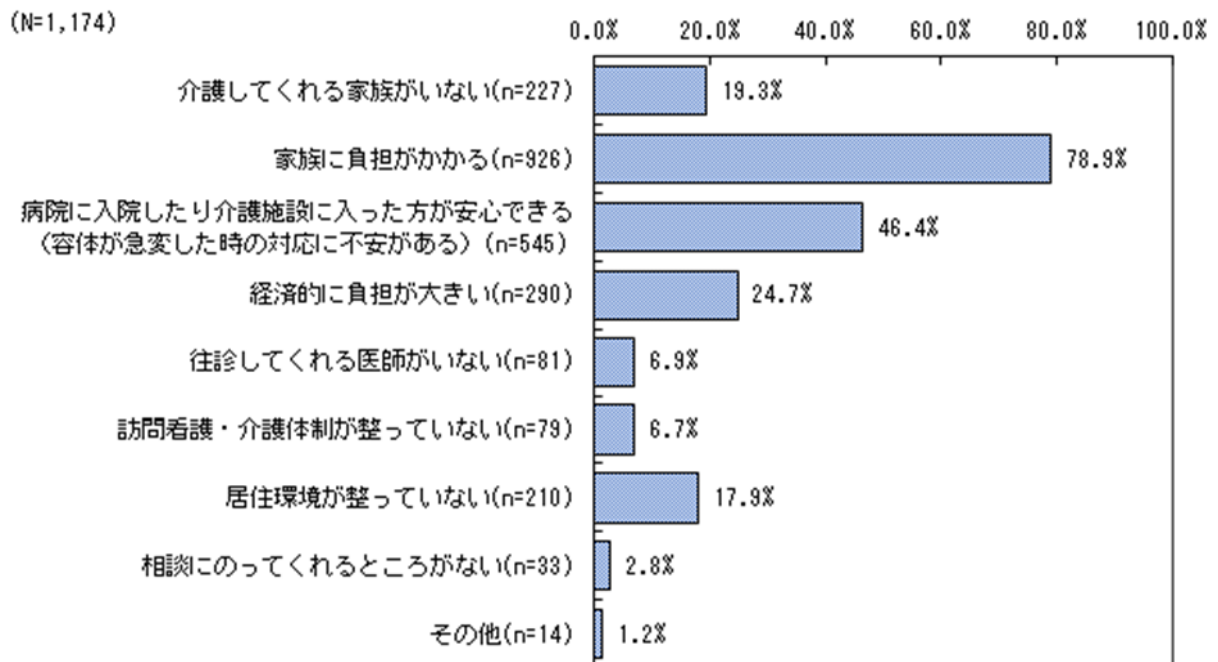


（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

○自宅で過ごすことを希望しない理由は「家族に負担がかかる」から。

「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と思う方について、理由をみると、「家族に負担がかかる」が 78.9%で最も多く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる（容体が急変した時の対応に不安がある）」（46.4%）、「経済的に負担が大きい」（24.7%）となっています。

図 自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由（複数回答）



6 その他について

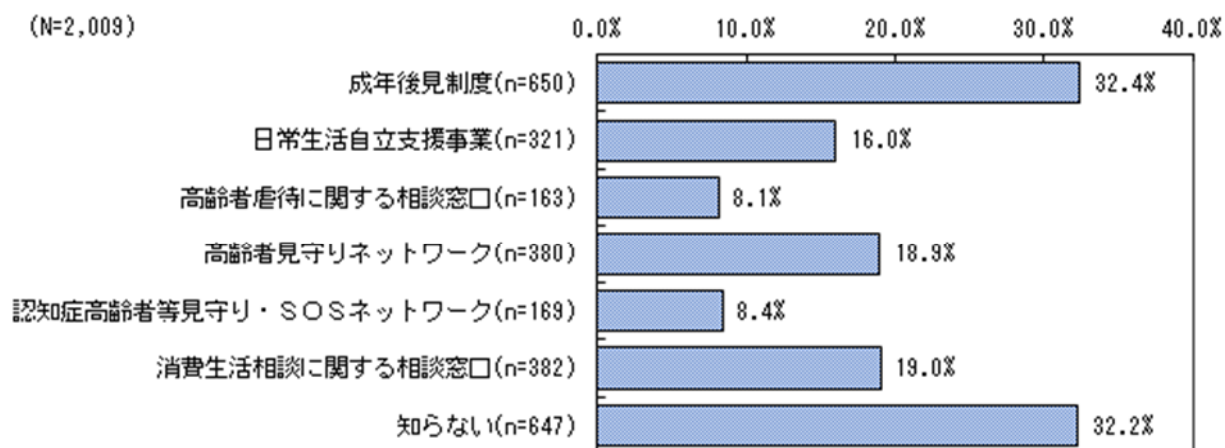
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度

高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたがお存じのものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

○「成年後見制度」を知っている人は約3割。一方、高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスを「知らない」という人も約3割。

「知らない」を除いて、認知度が高いのは「成年後見制度」(32.4%)、「消費生活相談に関する相談窓口」(19.0%)などとなっています。

図 高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度 (複数回答)



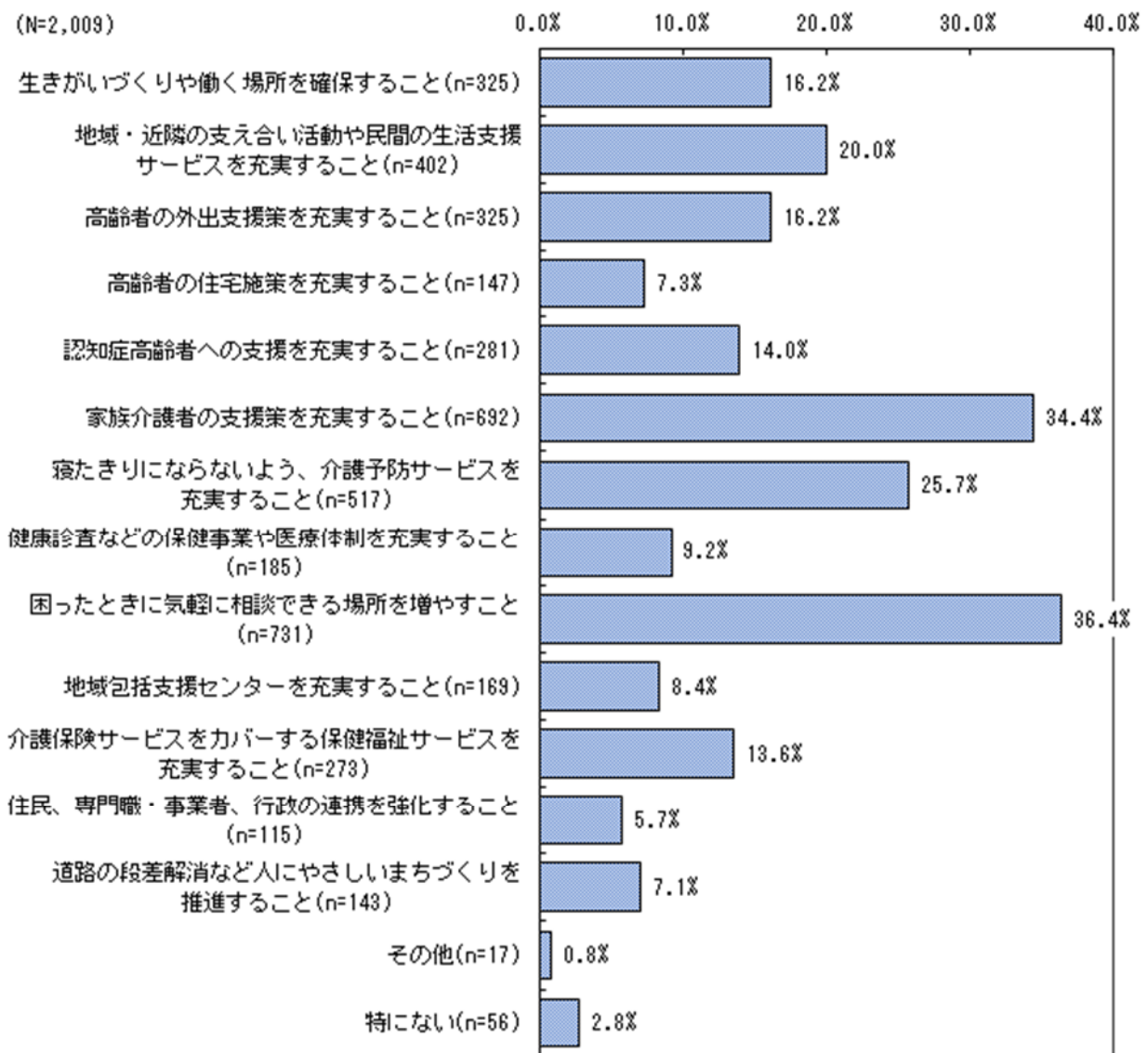
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの

市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

○市が優先して取り組むべき高齢者施策は「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」、「家族介護者の支援策を充実すること」。

「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」（36.4%）が最も多く、次いで「家族介護者の支援策を充実すること」（34.4%）、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」（25.7%）となっています。

図 市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）



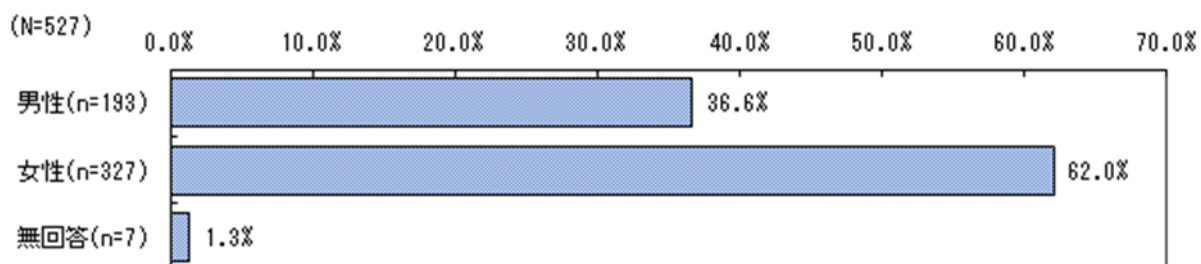
第3章 介護・在宅医療意向調査結果

1 属性

■性別

「女性」が62.0%、「男性」が36.6%となっています。

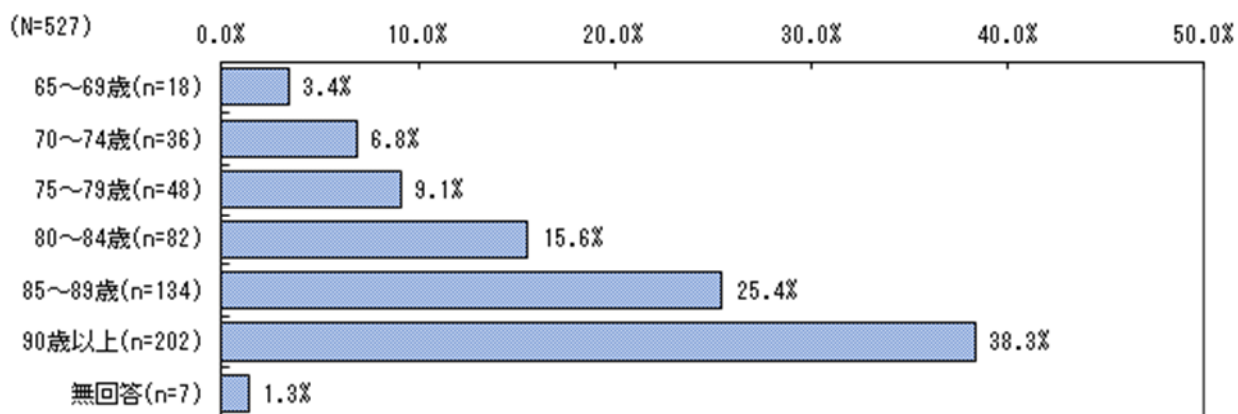
図 性別（単数回答）



■年齢

「90歳以上」が38.3%で最も多く、次いで「85～89歳」(25.4%)、「80～84歳」(15.6%)となっています。

図 年齢（単数回答）

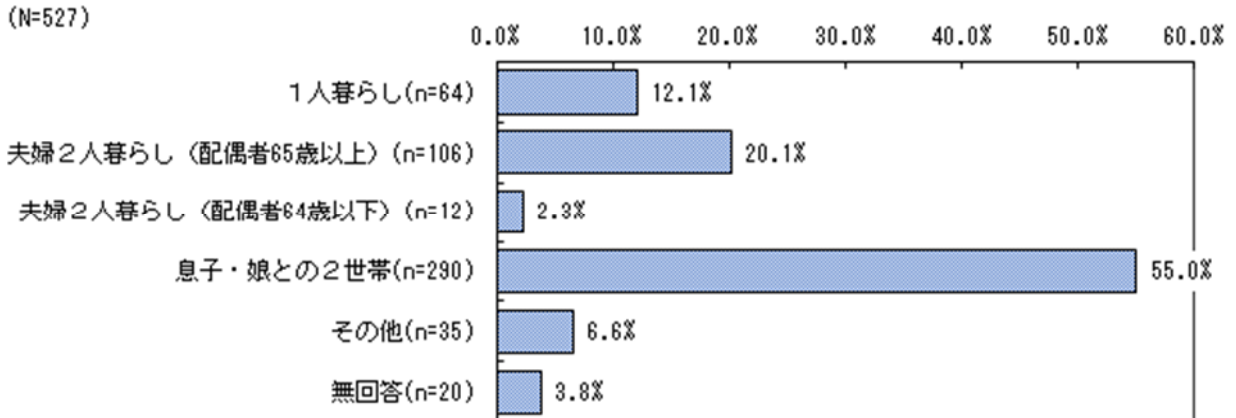


■世帯の状況

○女性は男性より「1人暮らし」の割合が高く、15.6%。

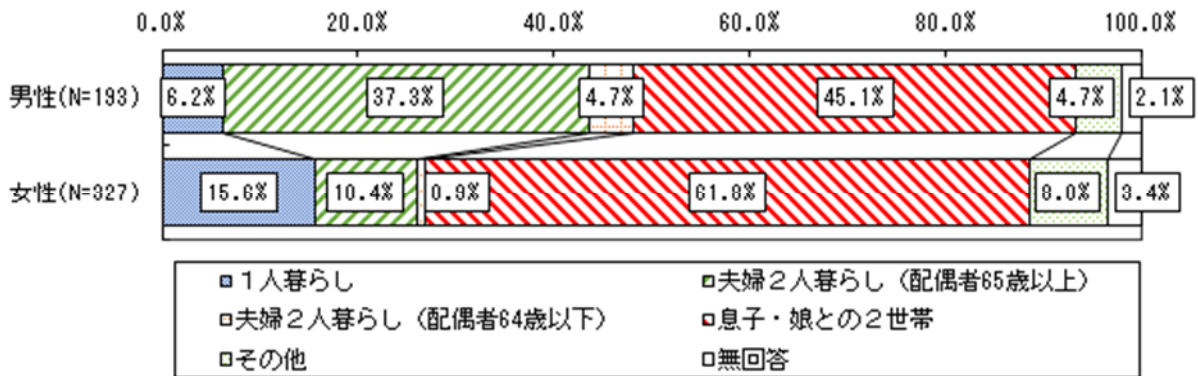
「息子・娘との2世帯」(55.0%)が最も多く約5割、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(20.1%)、「1人暮らし」(12.1%)となっています。

図 世帯の状況(単数回答)



性別にみると、男女ともに「息子・娘との2世帯」が最も多く、次いで男性では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」、女性では「1人暮らし」となっています。

図 性別 世帯の状況(単数回答)



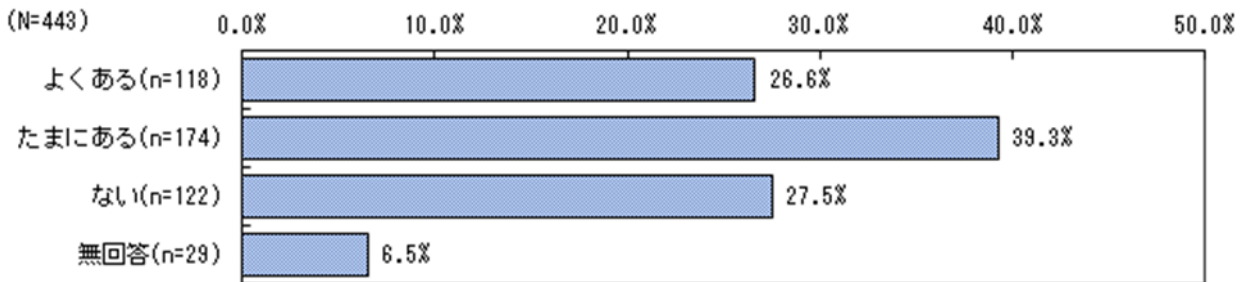
※「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」は件数が少ないため、以降のクロス集計では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」とまとめて「夫婦2人暮らし」として扱っている場合があります。

■日中一人になることがあるか

○日中一人になることがある人は6割以上で、女性がより多い。

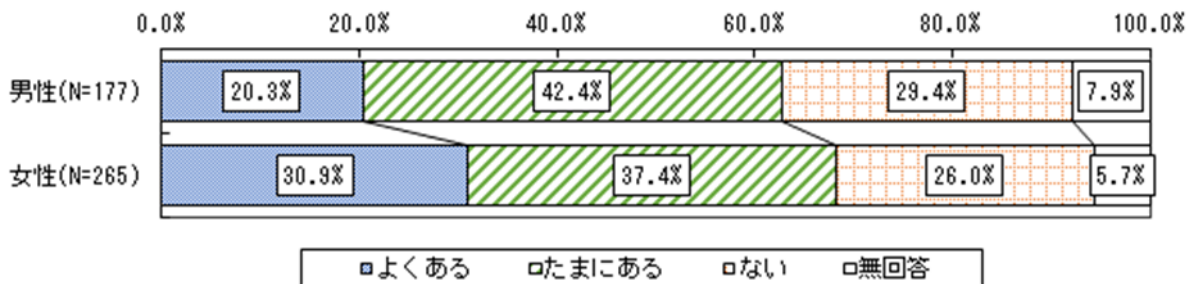
一人暮らしでない方について、日中一人になることがあるかをみると、「たまにある」が39.3%で最も多く、次いで「ない」(27.5%)となっています。「よくある」と「たまにある」を合わせると65.9%が日中1人になることがあります。

図 日中一人になることがあるか（単数回答）



性別にみると、「よくある」は女性（30.9%）が男性（20.3%）に比べて多くなっています。

図 性別 日中一人になることがあるか（単数回答）



2 日ごろの生活について

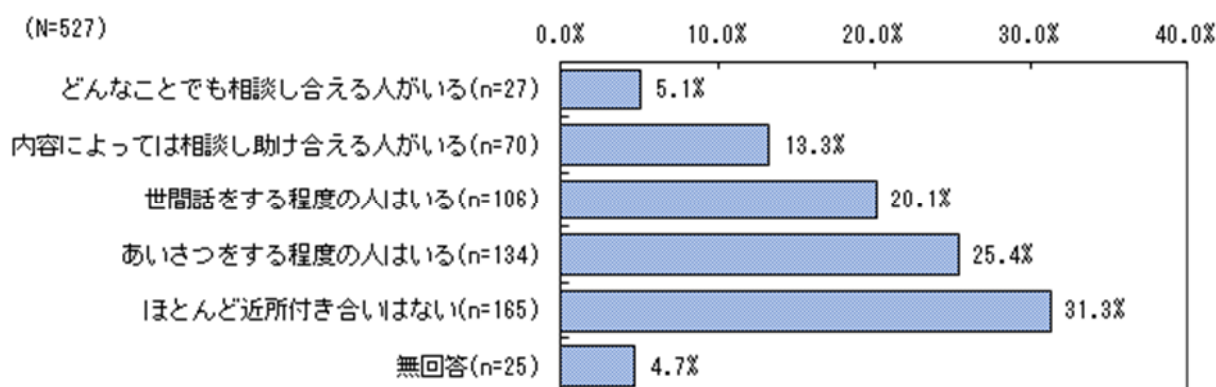
■近隣との付き合い

あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをされていますか。(1つに○)

○何らかの付き合いがある人が多いが、「ほとんど近所付き合いはない」という人も約3割。

「ほとんど近所付き合いはない」が 31.3%で最も多く、次いで「あいさつをする程度の人はいる」(25.4%)、「世間話をする程度の人はいる」(20.1%)となっています。

図 近隣との付き合い (単数回答)



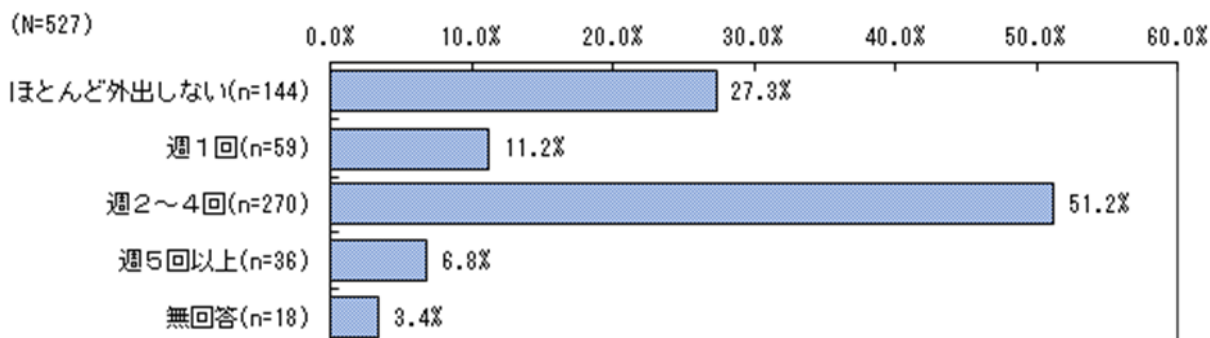
■外出頻度

あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

○週に1回以下しか外出しない人の割合は約4割。

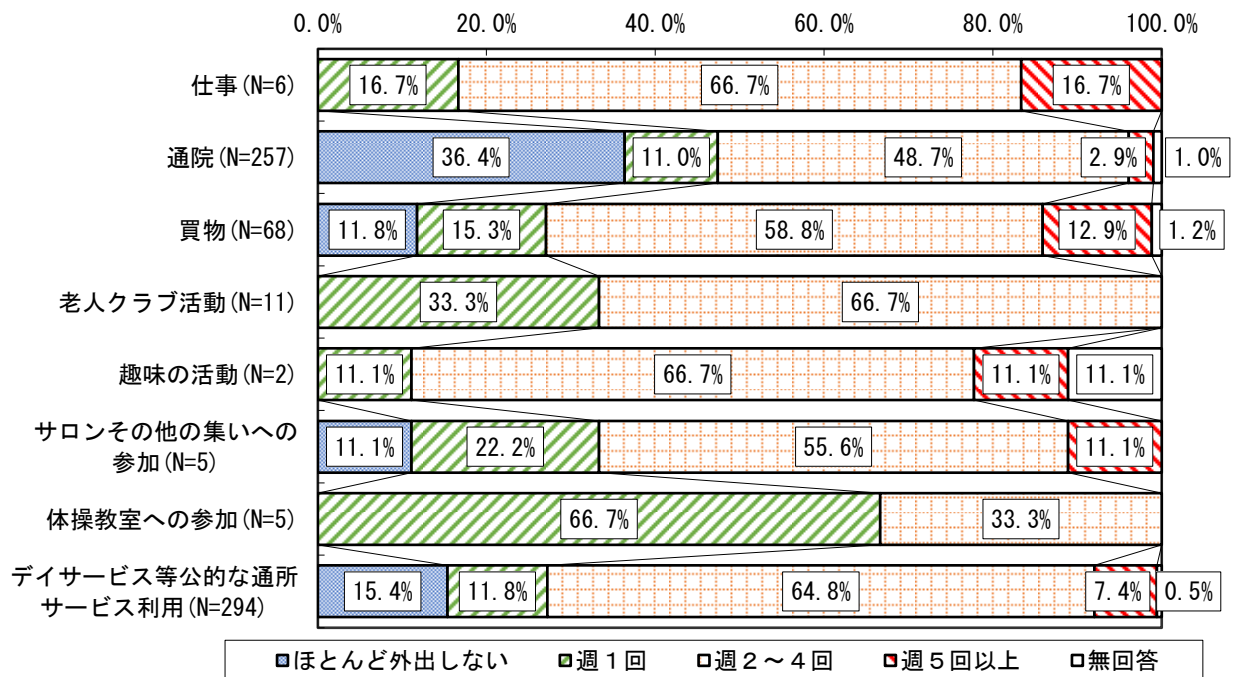
「週2～4回」が 51.2%で最も多くなっています。週に1回以下しか外出しない人の割合（「ほとんど外出しない」と「週1回」の合計）は 38.5%で約4割となっています。

図 外出頻度 (単数回答)



外出目的別に外出頻度をみると、外出する主な目的が「通院」、「買い物」、「デイサービス等公的な通所サービス利用」では「週2～4回」が最も多くなっています。また、外出する主な目的が「通院」では「ほとんど外出しない」が36.4%と多くなっています。

図 外出目的別 外出頻度（複数回答）



※外出目的は複数回答のため、各項目のN数の合計は全体のN数よりも大きくなります。

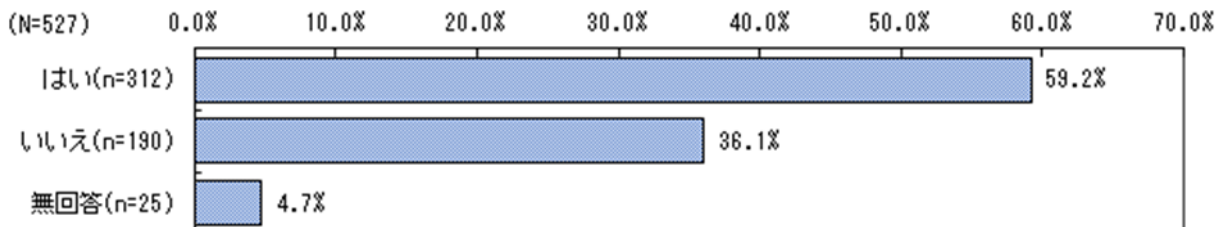
■外出を控えているか

あなたは、外出を控えていますか。(1つに○)

○外出を控えている人が約6割。

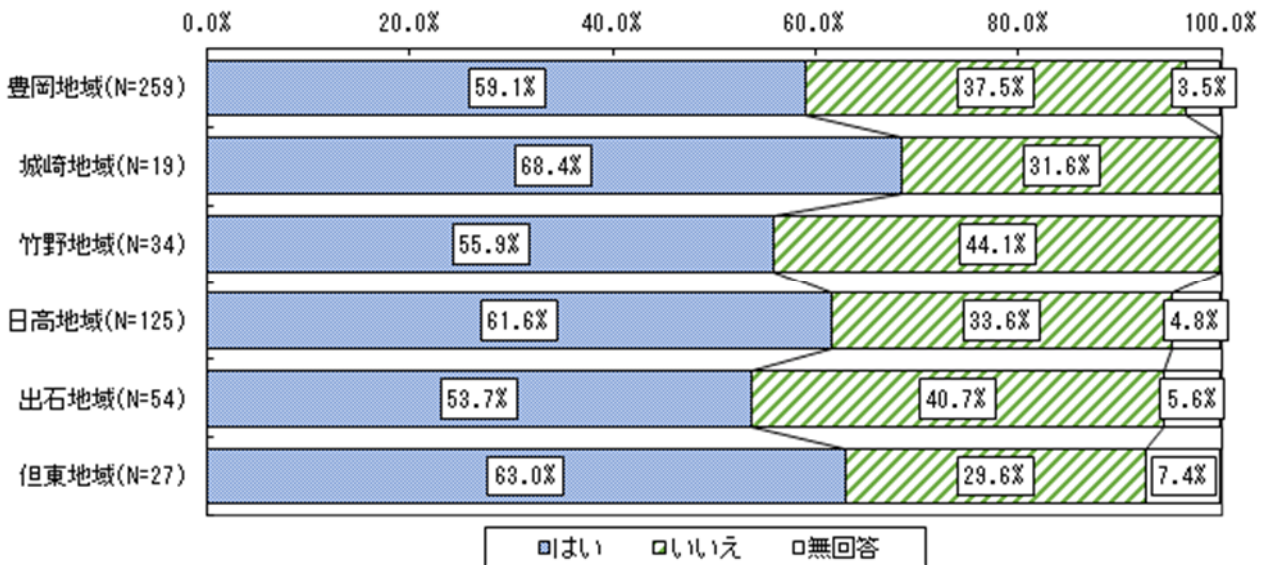
「はい」が59.2%で約6割となっています。

図 外出を控えているか（単数回答）



居住地域別にみると、「はい」は城崎地域（68.4%）・但東地域（63.0%）・日高地域（61.6%）では6割を超えており、外出を控える人が多くなっています。

図 居住地域別 外出を控えているか（単数回答）



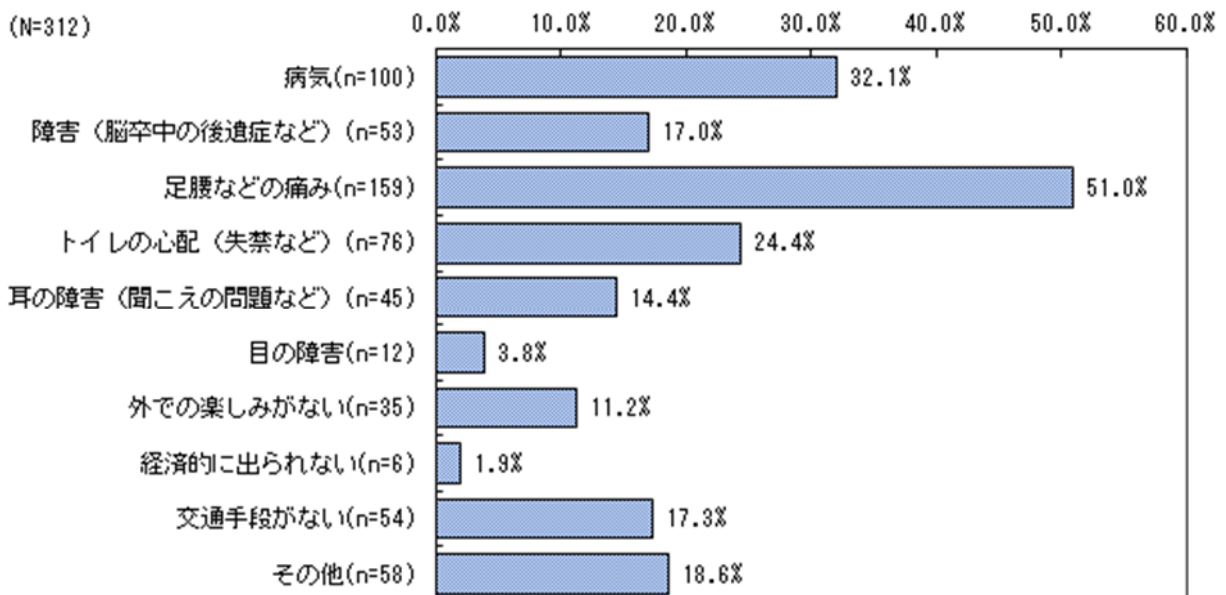
■外出を控えている理由

あなたが外出を控えている理由は、次のどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○外出を控える理由としては、「足腰などの痛み」が5割以上。

外出を控えている方について、その理由をみると、「足腰などの痛み」が51.0%で最も多く、次いで「病気」(32.1%)、「トイレの心配（失禁など）」(24.4%)となっています。

図 外出を控えている理由（複数回答）



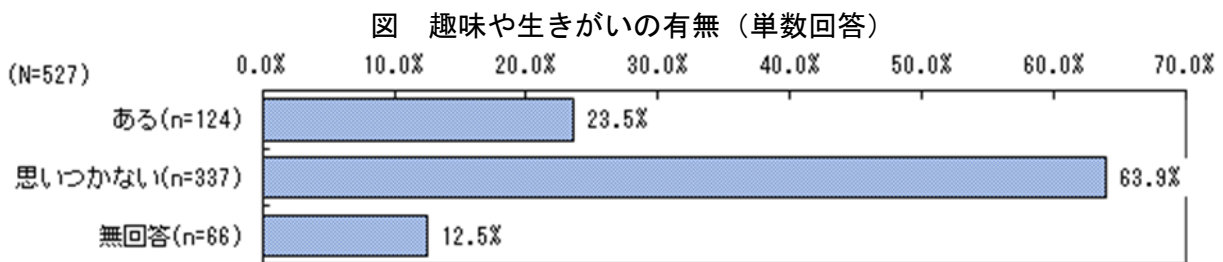
■趣味や生きがいの有無

あなたには、趣味や生きがいとしているもの（こと）がありますか。ある場合は（ ）内に具体的な内容をお書きください。（1つに○）

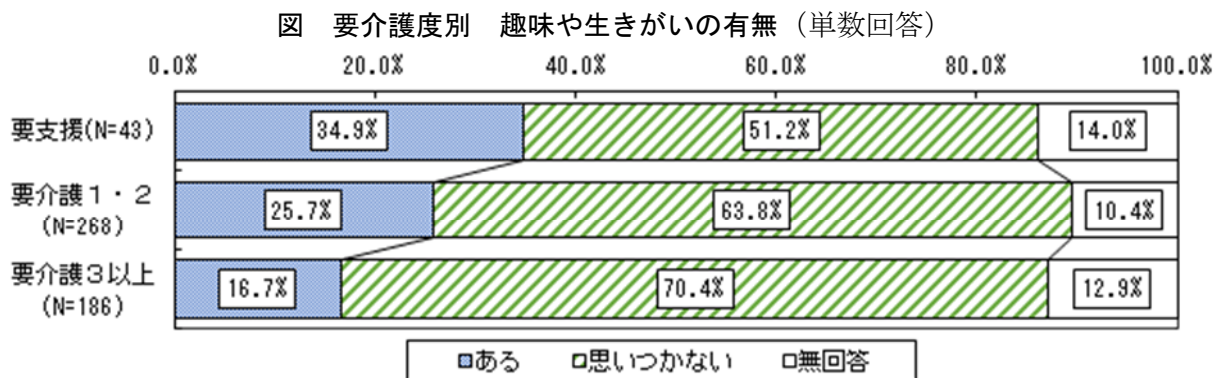
○趣味や生きがいが「思いつかない」という人が6割以上。

趣味や生きがいの有無をみると、「ある」は23.5%となっています。

趣味や生きがいの具体的な内容としては、「園芸、家庭菜園」が最も多く、次いで「友人・知人との交流・会話」、「カラオケ、歌唱、演奏、踊りなど」、「読書、新聞閲読」などとなっています。



要介護度別にみると、要介護度が高いほど「ある」は少なくなっており、要介護3以上で趣味や生きがいがある人は16.7%にとどまっています。



3 介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて

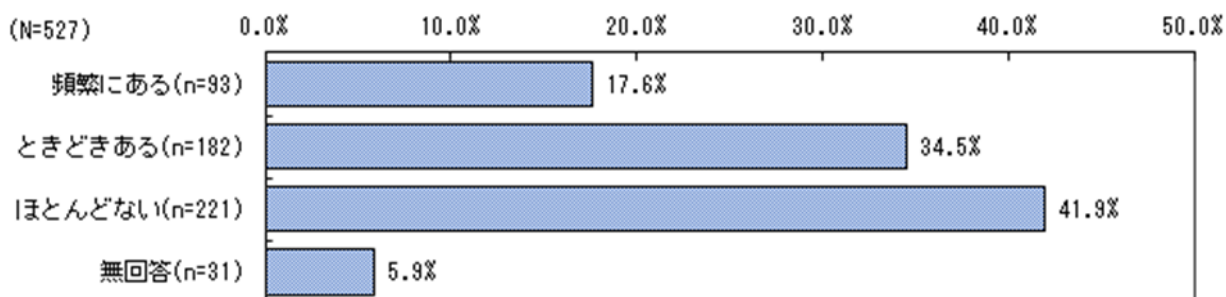
■早朝や夜間に支援を必要とする機会

あなたは、早朝や夜間に支援を必要とすることがありますか。(1つに○)

○頻繁に早朝や夜間に支援を必要とする人は、要介護3以上では3割以上。

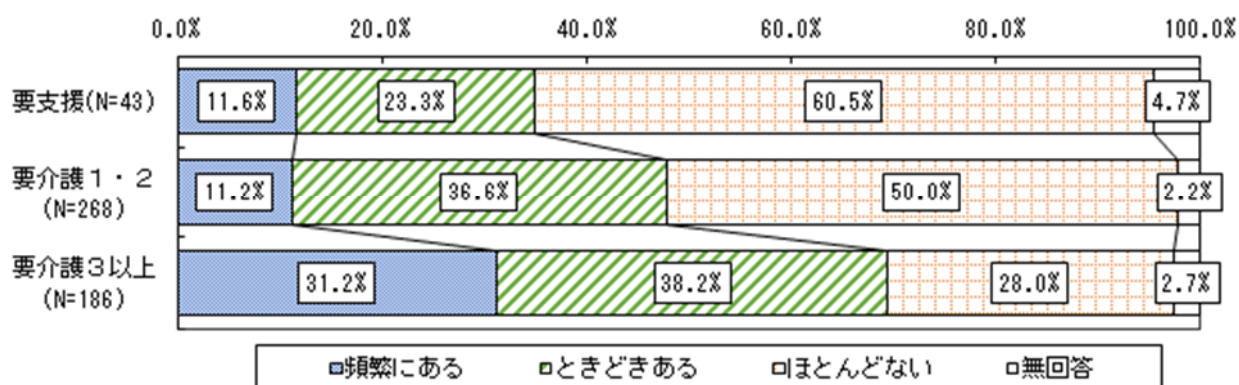
「ほとんどない」が41.9%で最も多く、次いで「ときどきある」(34.5%)、「頻繁にある」(17.6%)となっています。「頻繁にある」と「ときどきある」を合わせると52.1%となっており、約5割が早朝や夜間の支援を必要としています。

図 早朝や夜間に支援を必要とする機会 (単数回答)



要介護別にみると、要介護3以上では「頻繁にある」が31.2%と、3割以上が頻繁に支援を必要としています。

図 要介護度別 早朝や夜間に支援を必要とする機会 (単数回答)



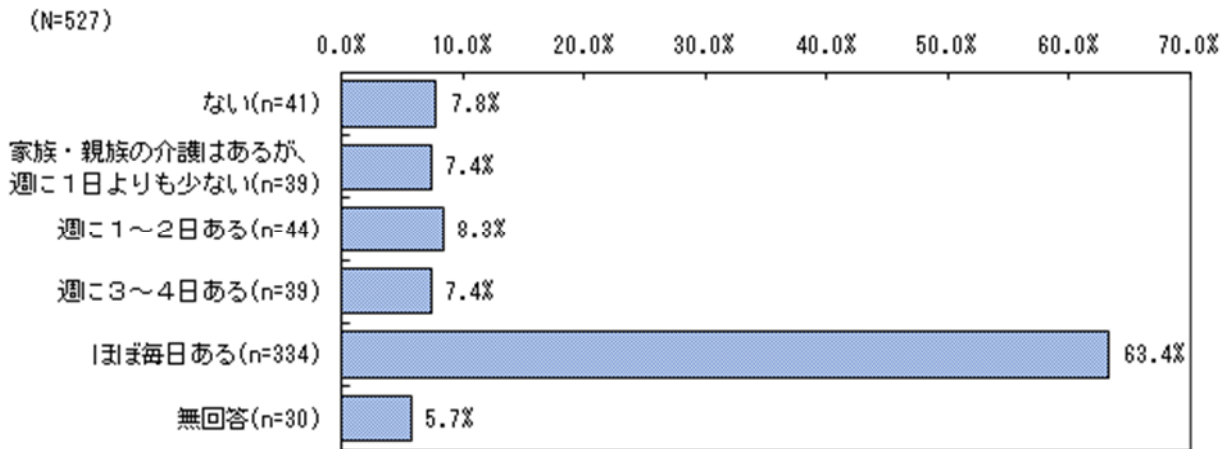
■家族や親族による介護・介助の頻度

あなたに対して、家族や親族からの介護・介助は、週にどのくらいありますか。同居していない子どもや親族等からの介護・介助も含みます。(1つに○)

○ほぼ毎日家族や親族による介護・介助がほぼ毎日ある人が6割以上。

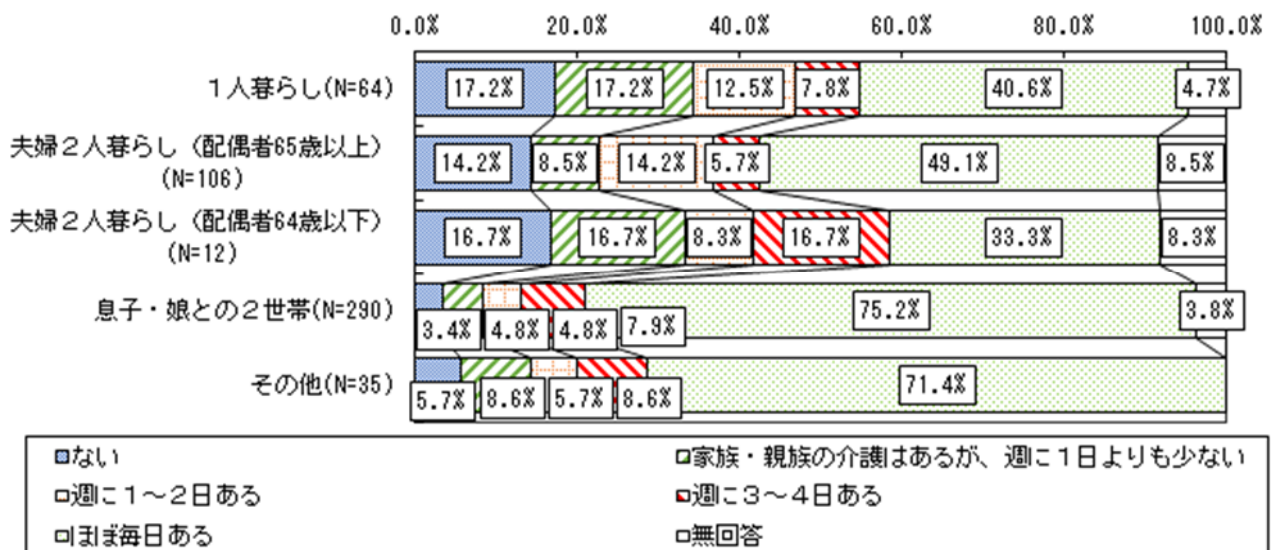
「ほぼ毎日ある」が63.4%で最も多く、次いで「週に1～2日ある」(8.3%)、「ない」(7.8%)となっています。家族や親族による介護・介助がない日がある人(「ほぼ毎日ある」を除く選択肢の合計)は30.9%となっています。

図 家族や親族による介護・介助の頻度 (単数回答)



世帯の状況別にみると、家族や親族による介護・介助がない日がある方は1人暮らしでは54.7%、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)では42.6%となっています。息子・娘との2世帯では「ほぼ毎日ある」が75.2%と7割以上を占めています。

図 世帯の状況別 家族や親族による介護・介助の頻度 (単数回答)



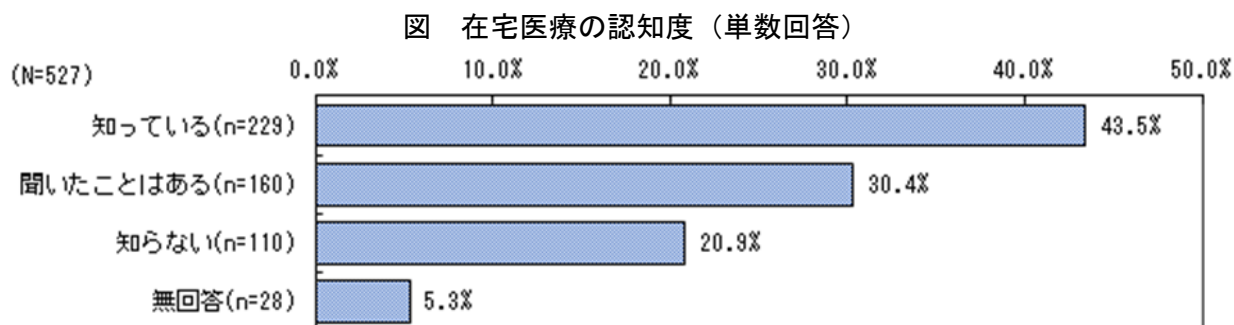
4 在宅医療について

■在宅医療の認知度

あなたは、「在宅医療」について知っていますか。(1つに○)

○在宅医療の認知度は「知っている」と「聞いたことはある」を合わせると7割以上。

「知っている」は43.5%、「聞いたことはある」は30.4%となっています。「知っている」と「聞いたことはある」を合わせた認知度は73.9%となっています。



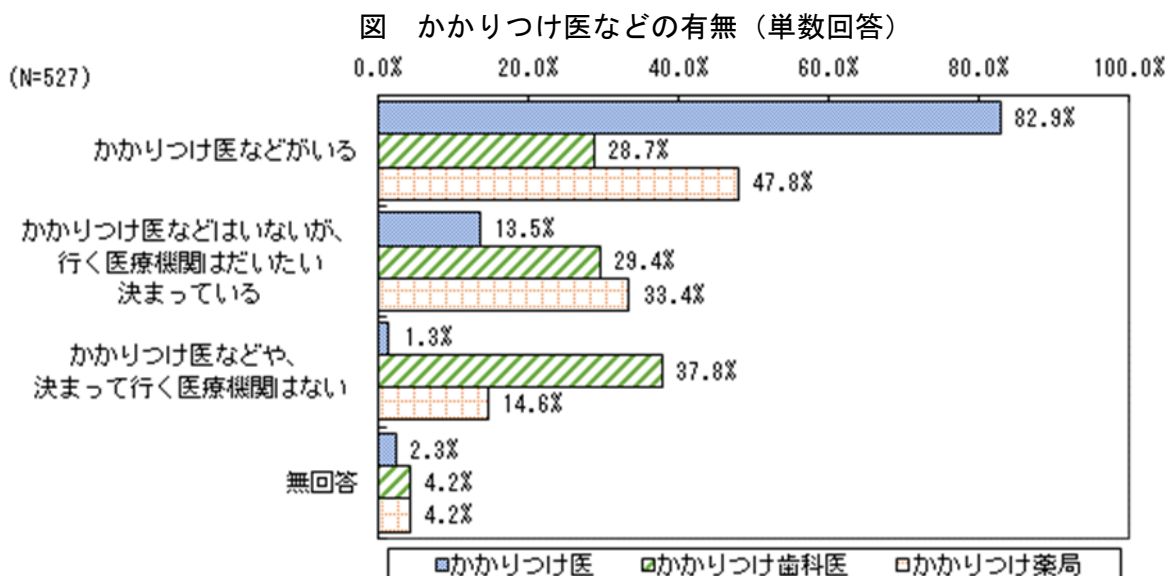
■かかりつけ医等の有無

あなたには、

- ・健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
- ・歯の状態を診てもらったり相談したりできる「かかりつけ歯科医」がいますか。
- ・あなたには、お薬のことを相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

○「かかりつけ医」がある人は8割以上。一方、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」がある人は5割未満。

「いる」は「かかりつけ医」が82.9%、「かかりつけ歯科医」が28.7%、「かかりつけ薬局」が47.8%となっています。



■高齢期に医療や介護が必要になった際の希望

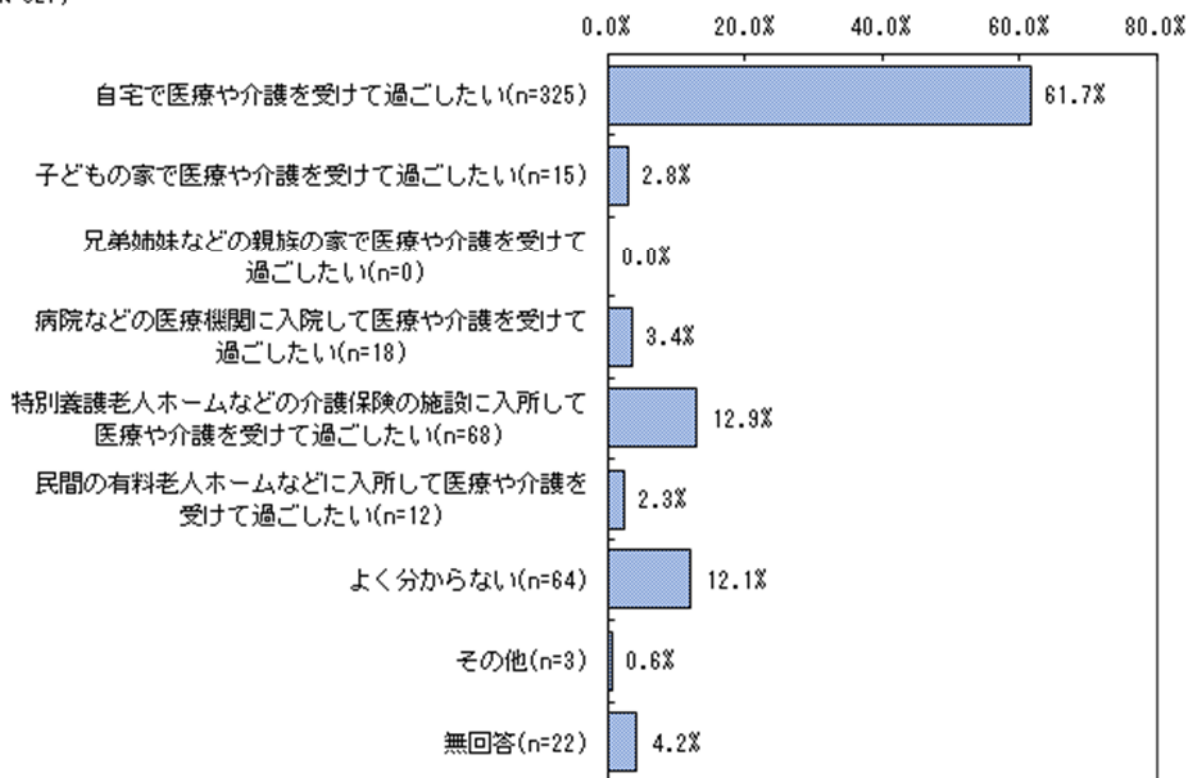
あなたは、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。（1つに○）

○医療や介護が必要になった際の希望では「自宅で医療や介護を受けて過ごしたい」が約6割。

「自宅で医療や介護を受けて過ごしたい」が61.7%で最も多く、子どもの家を含めると、64.5%と6割以上を占めます。次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごしたい」（12.9%）となっています。

図 高齢期に医療や介護が必要になった際の希望（単数回答）

(N=527)



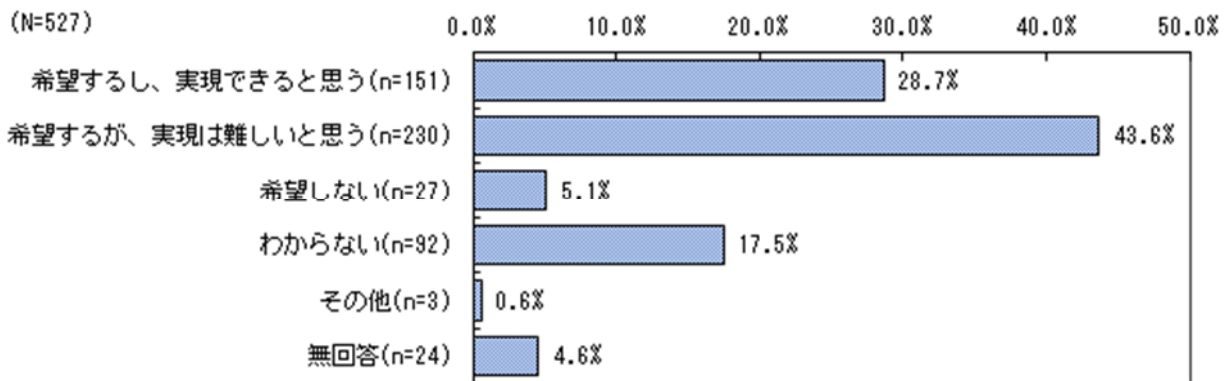
■自宅での看取りの希望と実現可能性

あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがなく死期が迫っている状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか、また、実現可能だと思いますか。（1つに○）

○自宅での看取りの希望と実現可能性では「希望するが、実現は難しいと思う」が約4割。「息子・娘との2世帯」では実現できると思う人が多い。

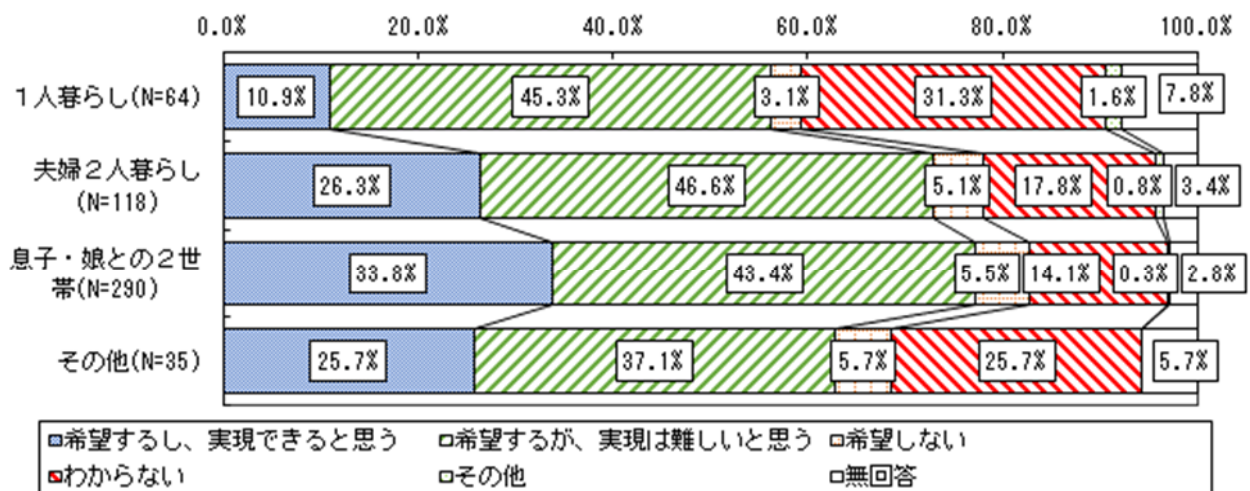
「希望するが、実現は難しいと思う」が43.6%で最も多く、次いで「希望するし、実現できると思う」（28.7%）となっており、自宅での看取りを希望する人（「希望するし、実現できると思う」と「希望するが、実現は難しいと思う」の合計）は72.3%となっています。

図 自宅での看取りの希望と実現可能性（単数回答）



世帯の状況別にみると、「希望するし、実現できると思う」は夫婦2人暮らしでは26.3%、息子・娘との2世帯では33.8%となっていますが、1人暮らしでは10.9%と少なくなっています。

図 世帯の状況別 自宅での看取りの希望と実現可能性（単数回答）



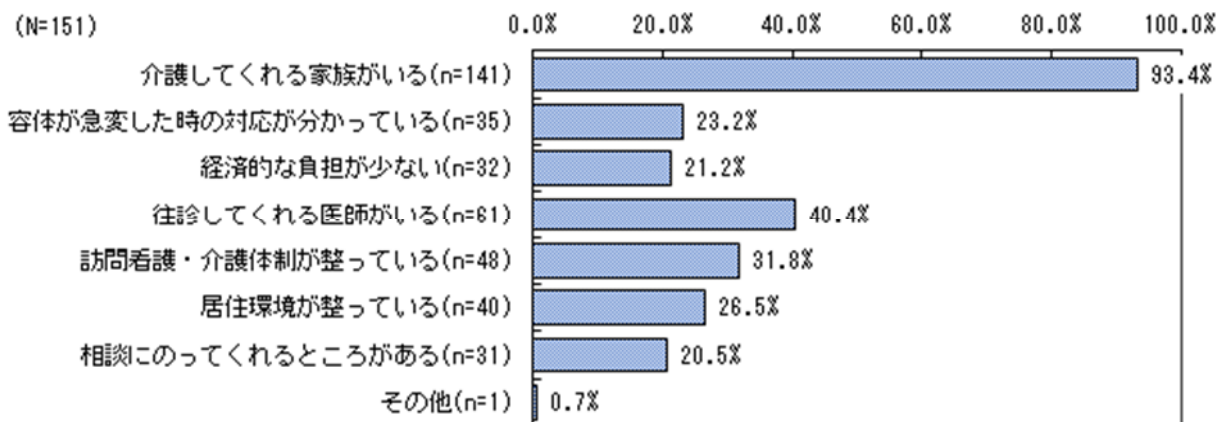
■自宅で最期まで過ごすことができると思う理由、難しいと思う理由

(自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して)「希望するし、実現できると思う」と考える理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

○自宅で最期まで過ごすことができると思う理由は「介護してくれる家族がいる」が9割以上。

「自宅で最期まで過ごすことができる」と考える方について、理由をみると、「介護してくれる家族がいる」が93.4%で最も多く、次いで「往診してくれる医師がいる」(40.4%)、「訪問看護・介護体制が整っている」(31.8%)となっています。

図 自宅で最期まで過ごすことができると思う理由(複数回答)

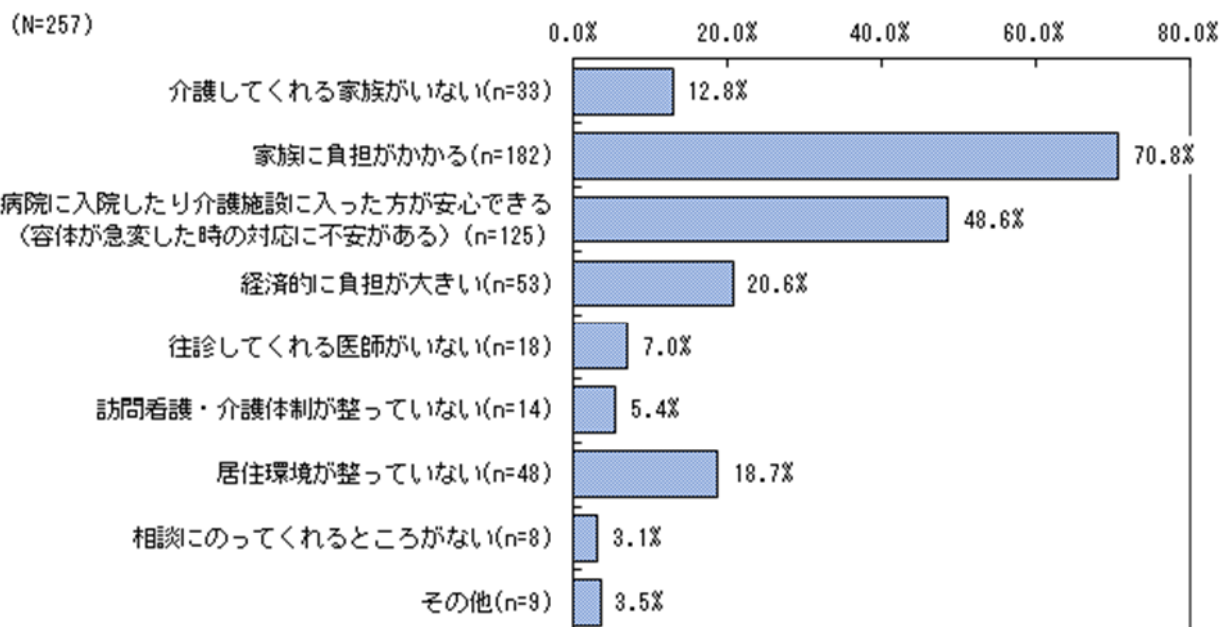


（自宅で最期まで過ごすことができるかという問いに対して）「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

○自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい理由は「家族に負担がかかる」が約7割。

「自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しい」と考える方について、理由をみると、「家族に負担がかかる」が70.8%で最も多く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる（容体が急変した時の対応に不安がある）」（48.6%）、「経済的に負担が大きい」（20.6%）となっています。

図 自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由（複数回答）



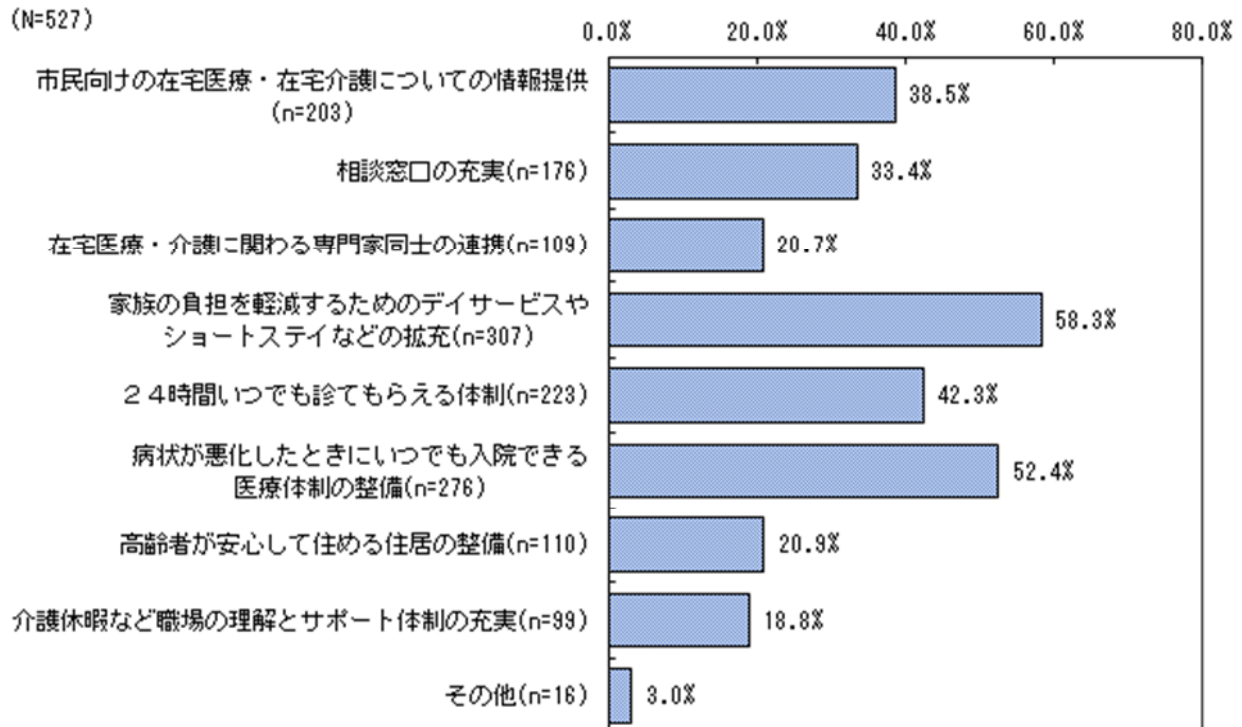
■今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと

今後、「在宅医療」や「在宅介護」が進むためには、どのようなことが必要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

○在宅医療や在宅介護に必要なことは「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」、「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」。

「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」が 58.3%で最も多く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」(52.4%)、「24時間いつでも診てもらえる体制」(42.3%)となっています。

図 今後在宅医療や在宅介護が進むために必要なこと（複数回答）



5 その他について

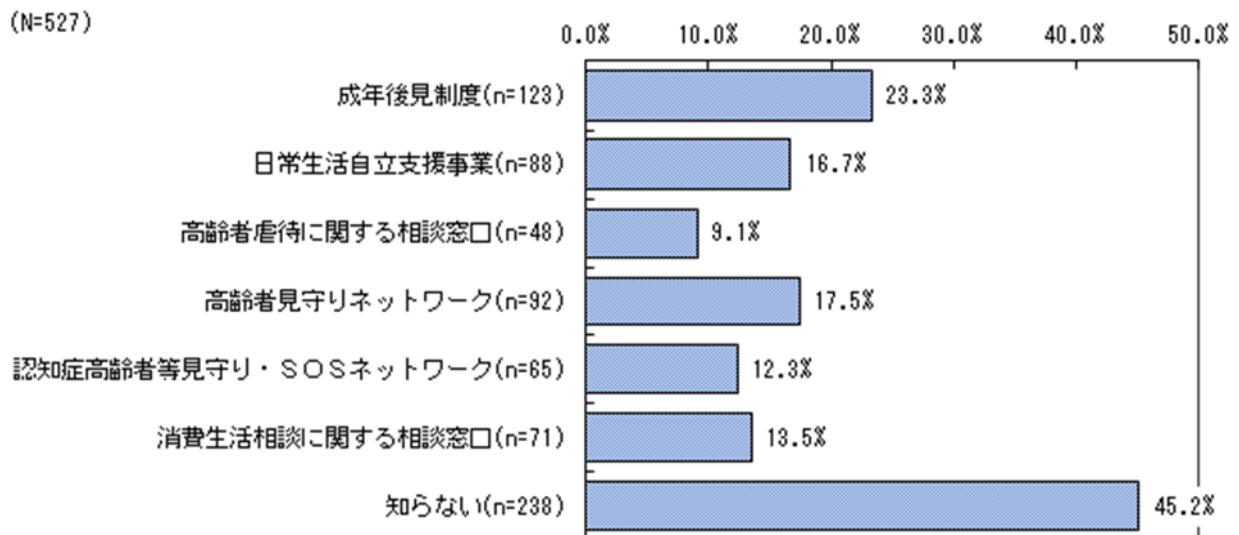
■高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度

高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたのご存じのものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

○高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度では「知らない」が4割以上。

高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度をみると、「知らない」を除いて、認知度が高いのは「成年後見制度」(23.3%)、「高齢者見守りネットワーク」(17.5%)などとなっています。

図 高齢者の権利や生活を守るための制度やサービスの認知度(複数回答)



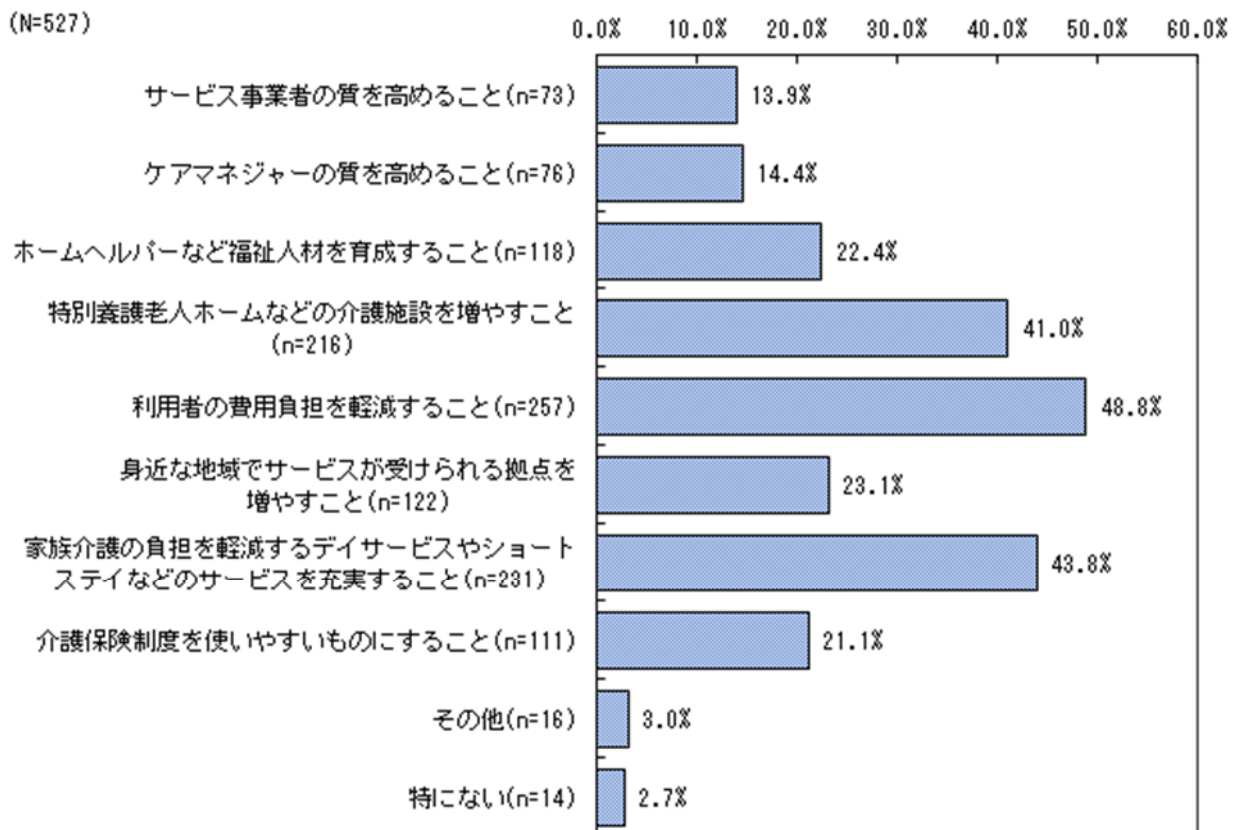
■介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと

「介護保険制度」全体をよりよくするために、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。(3つまでに○)

○市が力を入れるべきことは費用負担の軽減やサービスの充実、介護施設の増設。

「利用者の費用負担を軽減すること」が 48.8%で最も多く、次いで「家族介護の負担を軽減するデイサービスやショートステイなどのサービスを充実すること」(43.8%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」(41.0%)となっています。

図 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと (3つ以内で複数回答)



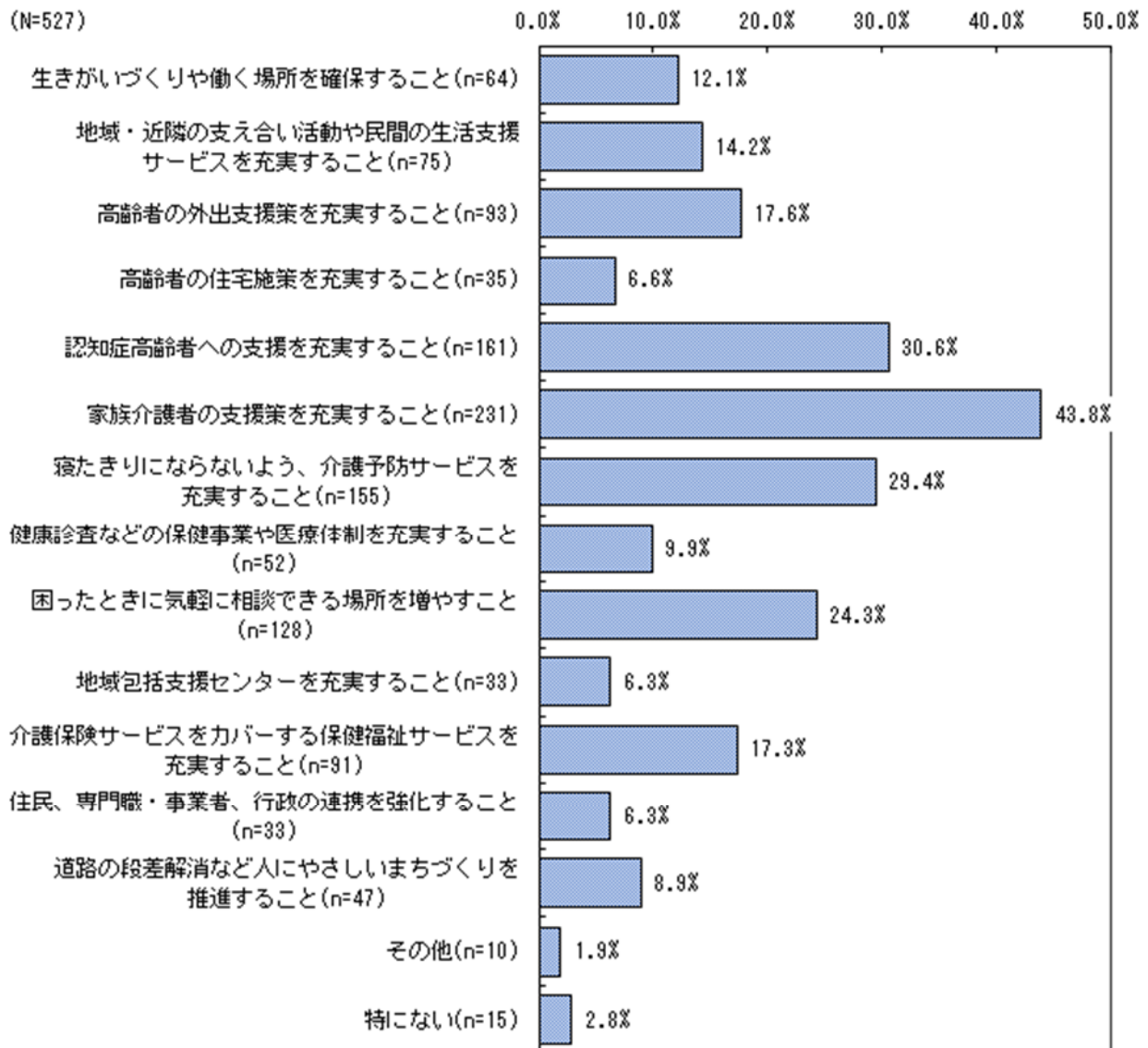
■市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの

市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

○市が優先して取り組むべき高齢者施策は、「家族介護者の支援策を充実すること」。

「家族介護者の支援策を充実すること」が 43.8%で最も多く、次いで「認知症高齢者への支援を充実すること」（30.6%）、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」（29.4%）となっています。

図 市が高齢者施策として優先して取り組むべきもの（3つ以内で複数回答）



第4章 在宅介護実態調査の概要

■主な介護者の性別・年齢

主な介護者をみると、性別では「女性」(68.2%)が多く、年齢別では「60代」(31.0%)が多くなっています。

図 主な介護者の性別 (単数回答)

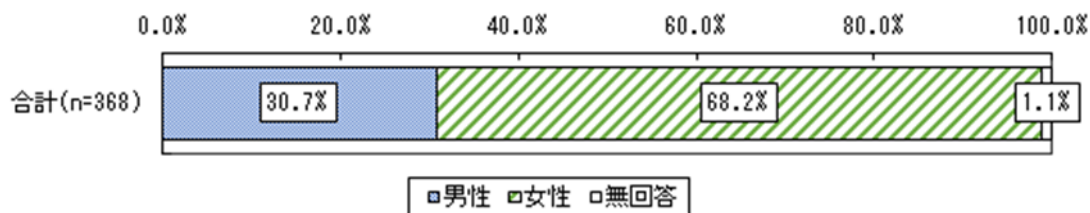
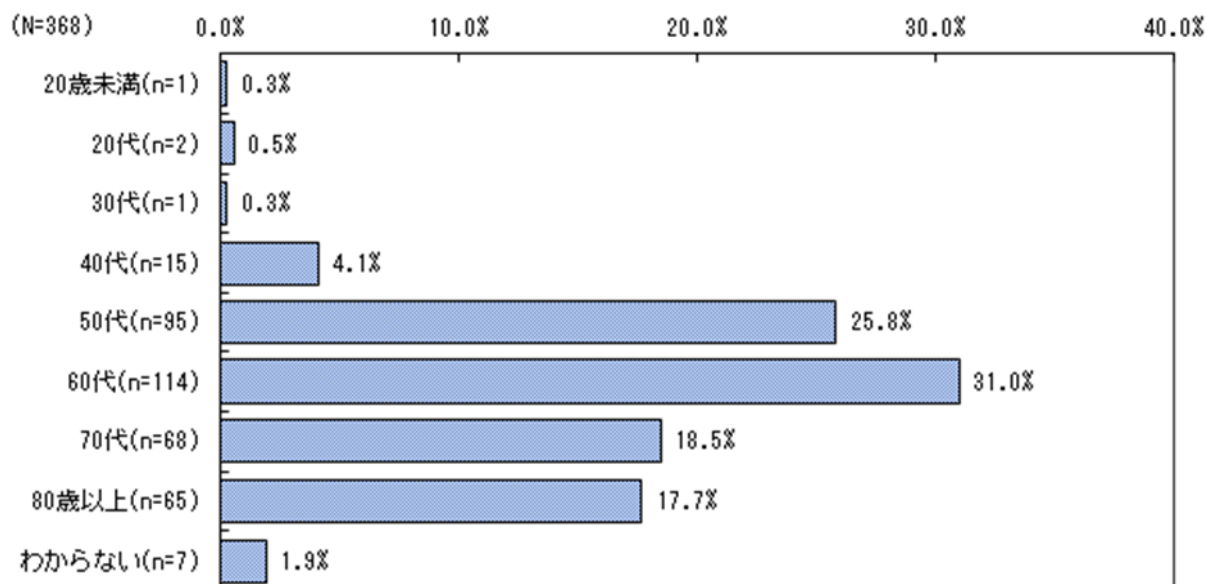


図 主な介護者の年齢 (単数回答)

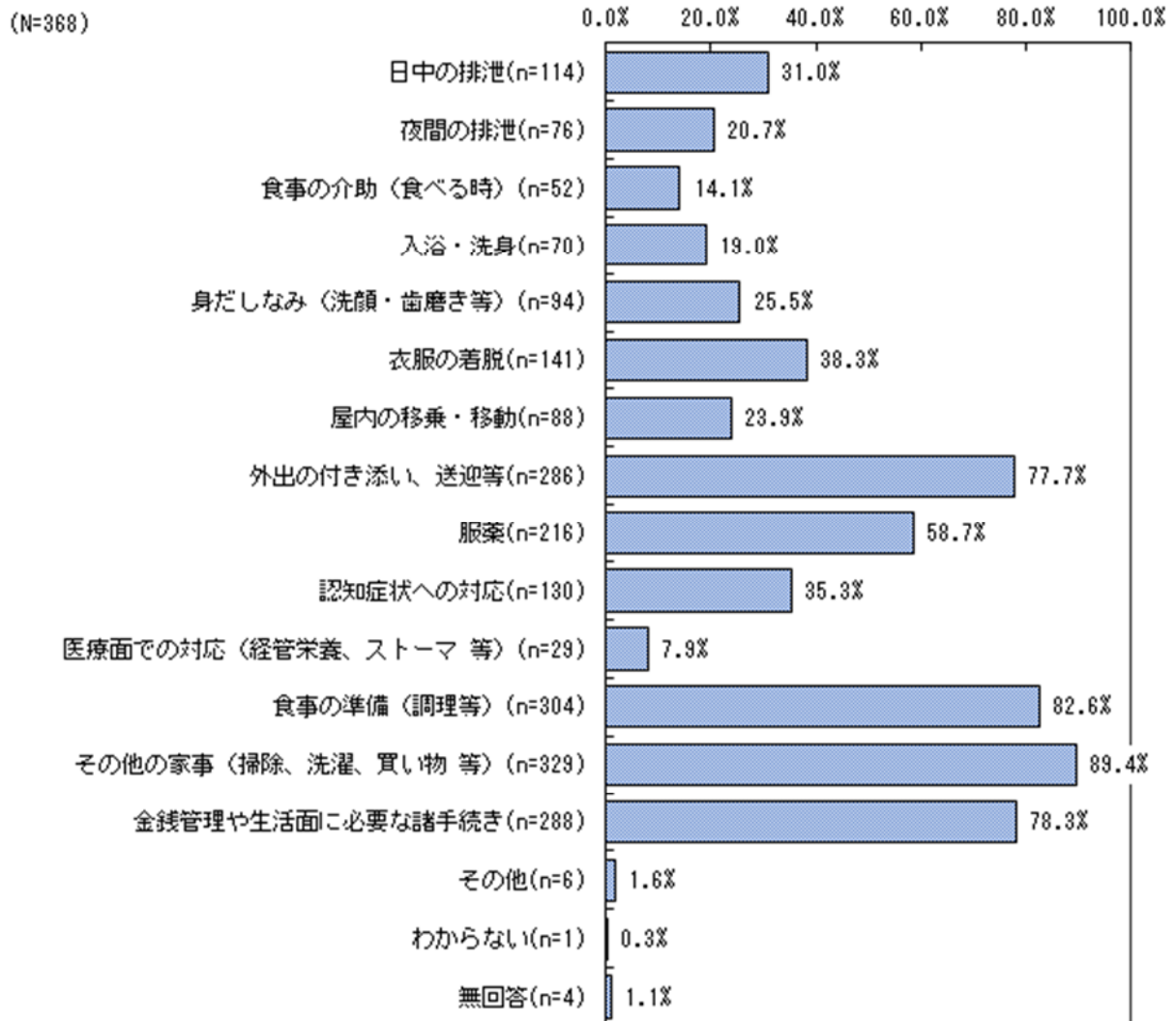


■主な介護者が行っている介護

○主な介護の内容としては、「その他の家事」や「食事の準備」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「外出の付き添い」など。

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 89.4%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」（82.6%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（78.3%）、「外出の付き添い・送迎等」（77.7%）と家事援助や外出支援に関する介護が多くなっています。

図 主な介護者が行っている介護（複数回答）

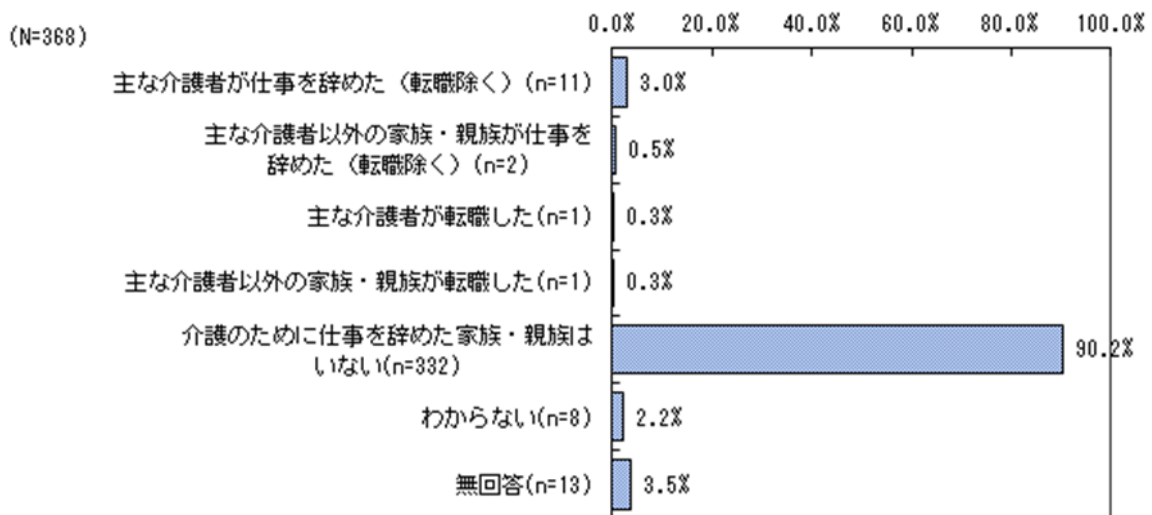


■介護のための離職の有無

○介護のための離職はわずかだがある。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 90.2%となっています。しかし、「主な介護者が仕事を辞めた」という人も 3.0%おり、介護を理由に離職を余儀なくされる人がいる状況がうかがえます。

図 介護のための離職の有無（複数回答）

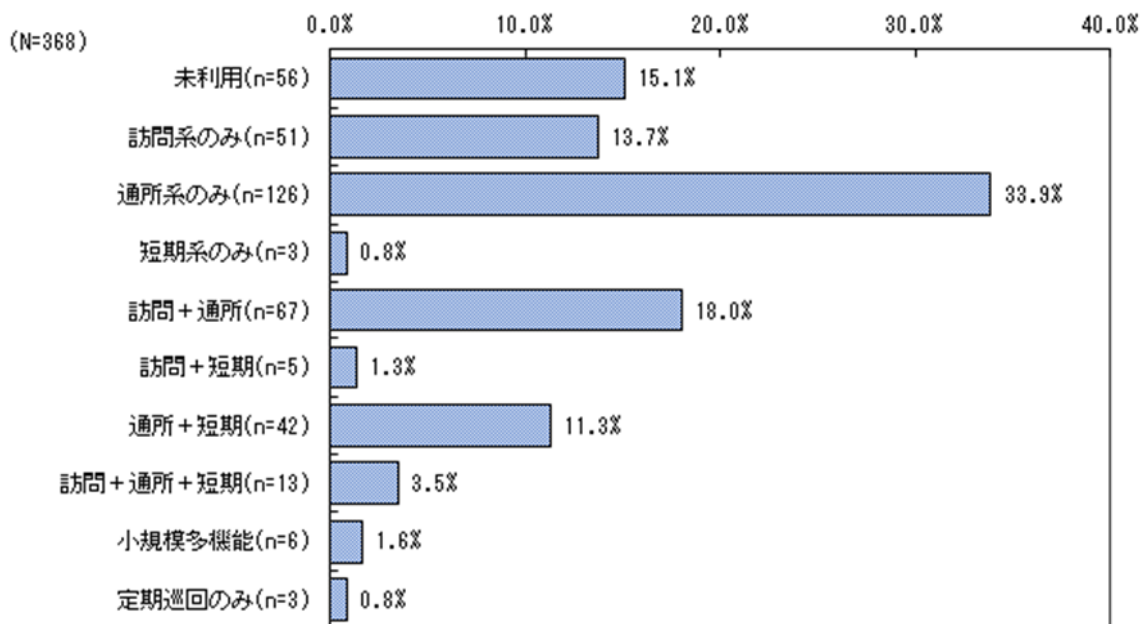


■介護保険サービスの利用の有無

○通所系サービスの利用が多い

サービス利用の組み合わせ方では、「通所系のみ」が 33.9%と最も多く、次いで「訪問+通所」(18.0%)、「未利用」(15.1%)となっています。

図 サービス利用の組み合わせ（単数回答）



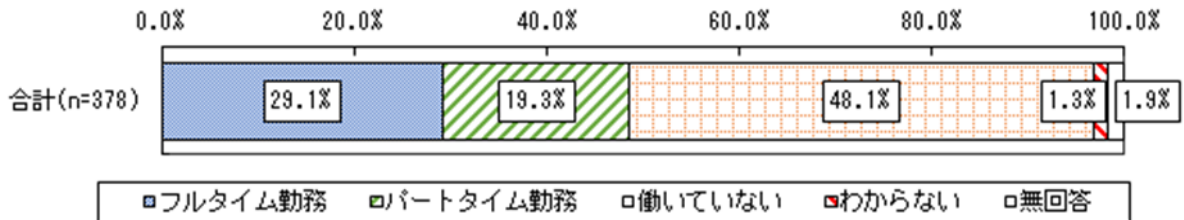
※看護多機能および定期巡回を含む組み合わせは回答がなかったため省略。

■主な介護者の勤務形態と働き方の調整状況

○「労働時間の調整」により介護と仕事の両立を図っている人が多い。

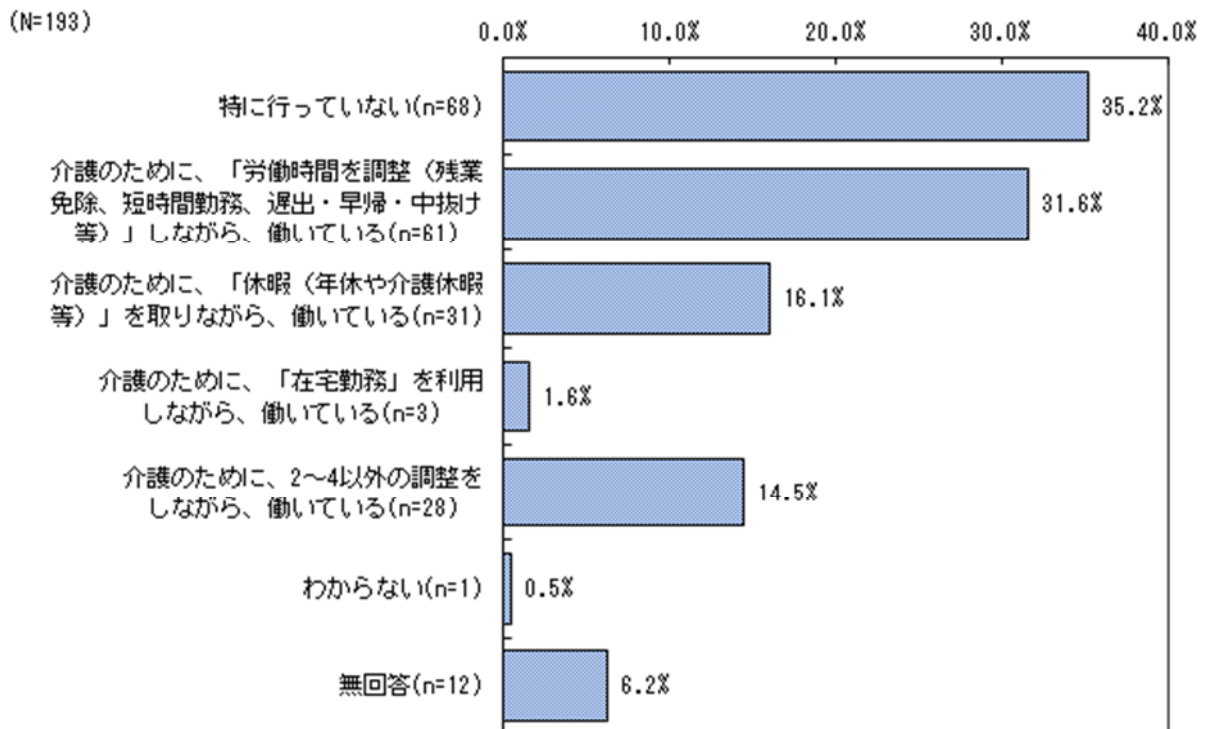
「働いていない」が48.1%と最も多く、次いで「フルタイム勤務」(29.1%)、「パートタイム勤務」(19.3%)となっています。

図 主な介護者の勤務形態（単数回答）



また、働いている主な介護者に働き方の調整状況についてたずねたところ、「特に行っていない」が35.2%、「介護のために労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら、働いている」が31.6%などとなっており、なんらかの調整を行いつつ仕事と介護の両立を図っていることがわかります。

図 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

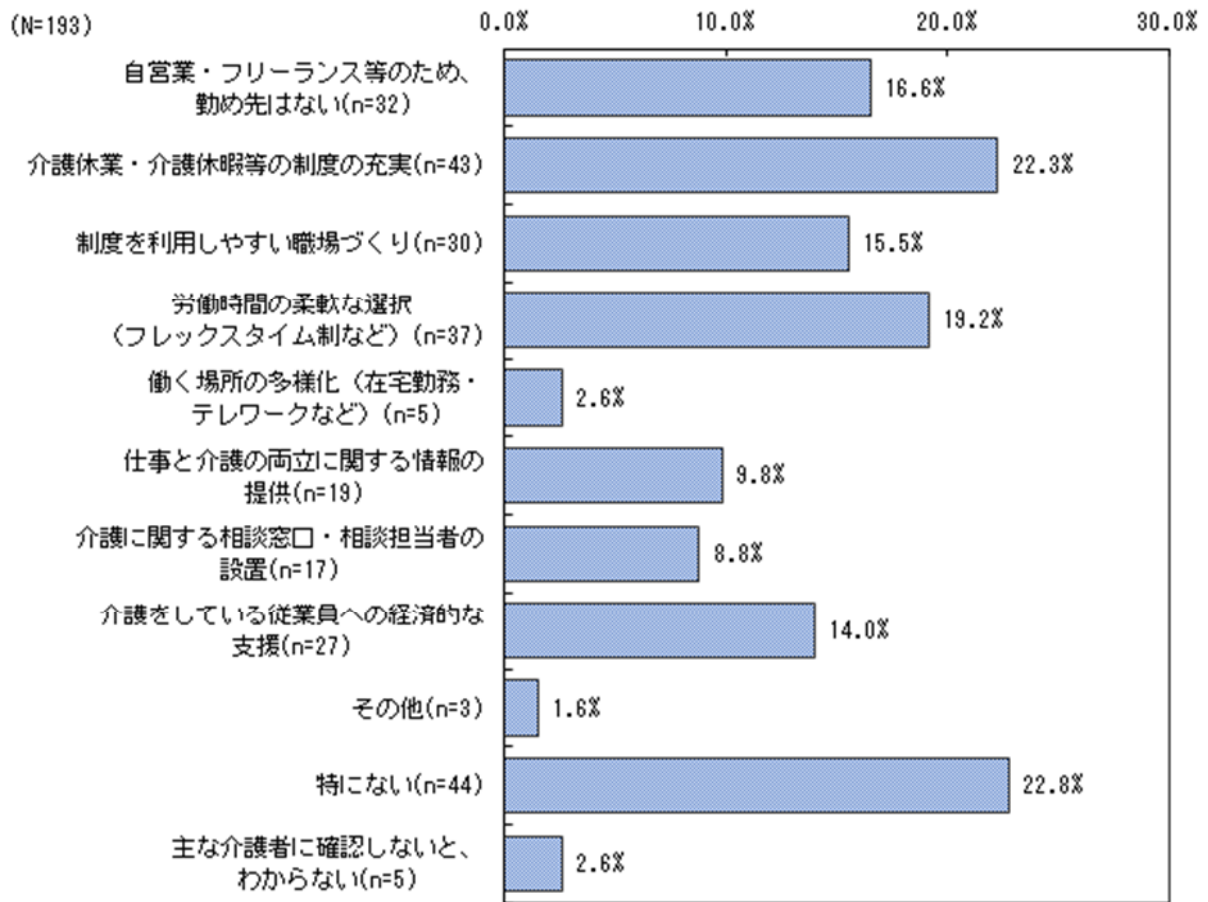


■就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

○勤め先からの支援がない人が約2割。就労を継続できるよう、勤め先からの支援を充実することが課題。

「特にない」を除くと、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.3%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（19.2%）、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」（16.6%）となっています。

図 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



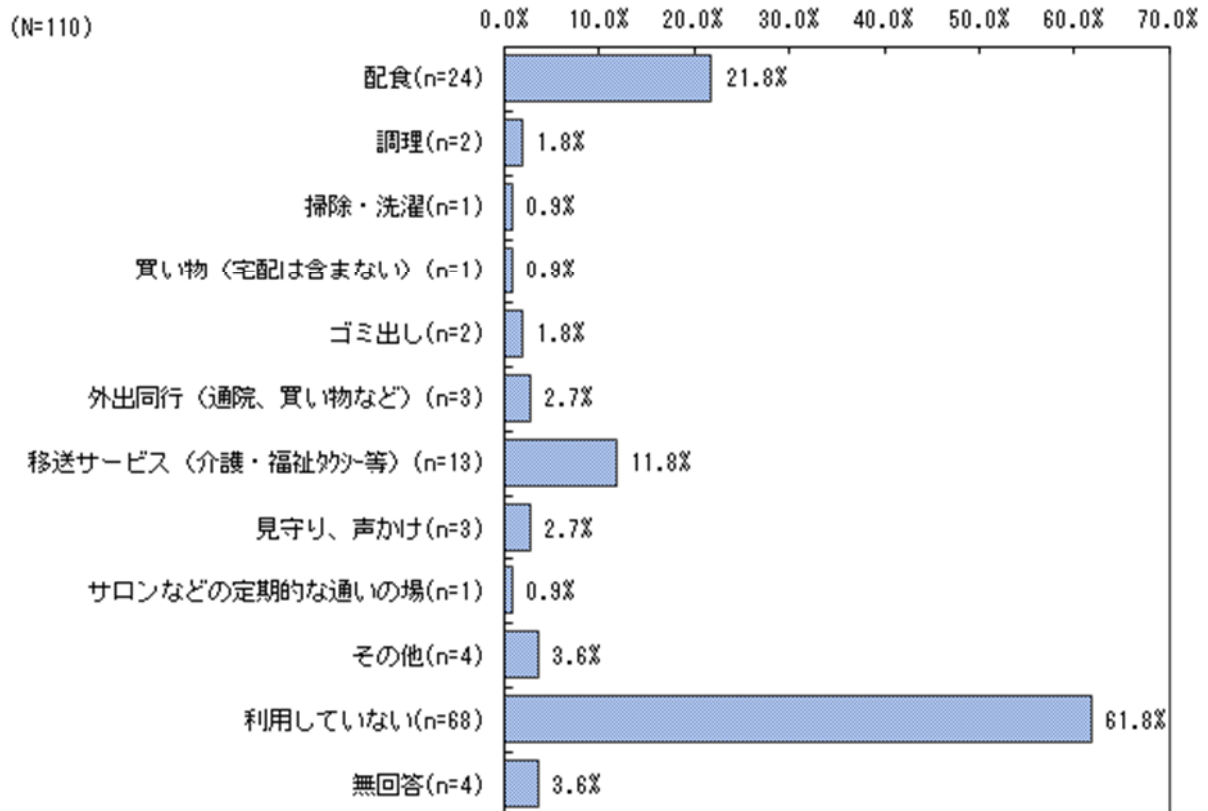
■在宅生活の継続のために利用している保険外サービスと必要と感じるサービス

○ニーズがありながら利用されていない支援・サービスが多数。在宅生活の継続につながるよう、支援・サービスに関する情報提供と利用促進が課題。

【利用している保険外サービス】

「利用していない」を除くと、「配食」が 21.8%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（11.8%）となっています。

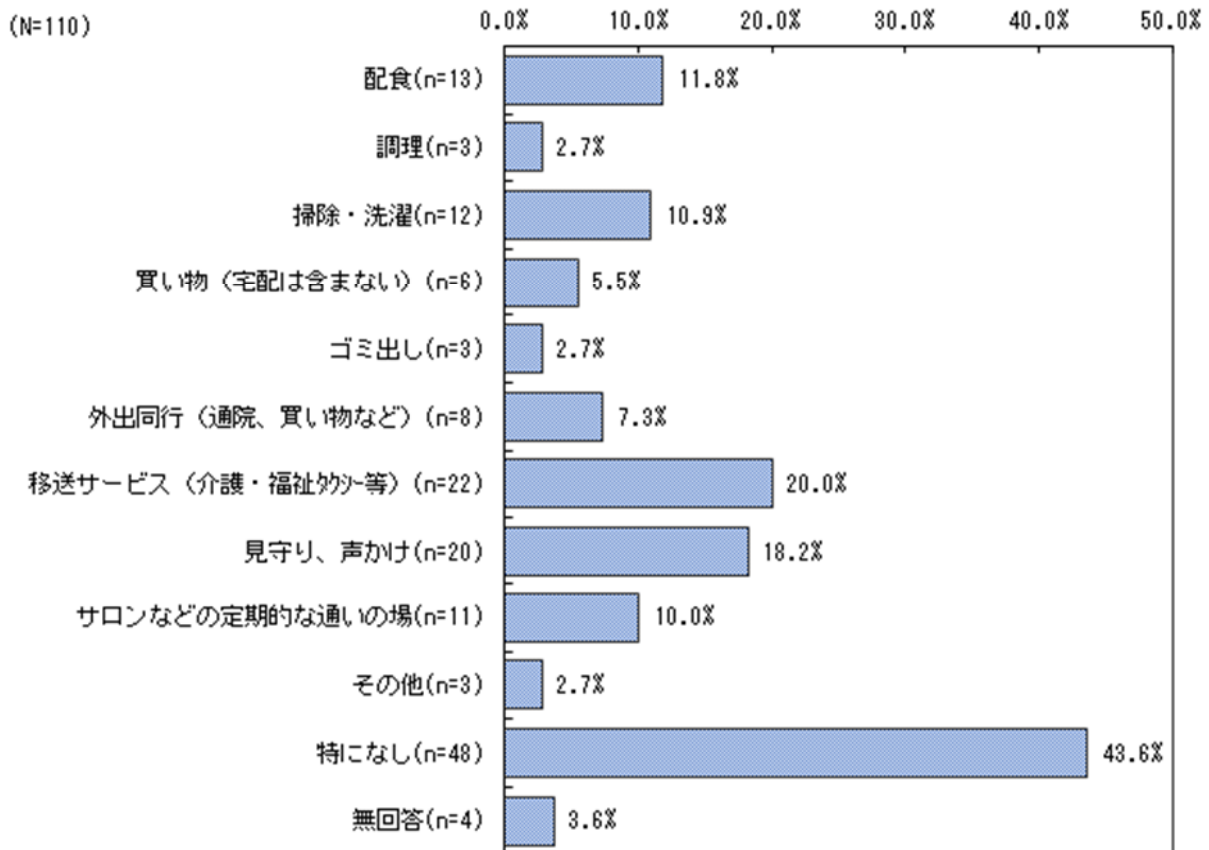
図 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）（複数回答）



【必要と感じる支援・サービス】

「特になし」を除くと、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 20.0%と最も多く、次いで「見守り、声かけ」（18.2%）、「配食」（11.8%）となっています。

図 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）（複数回答）



2020年度豊岡市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査介護・在宅医療意向調査報告書
概要版

2020年12月

発行 豊岡市 健康福祉部 高年介護課

〒668-0046 豊岡市立野町 12-12

TEL 0796-24-2401 / FAX 0796-29-3144
